

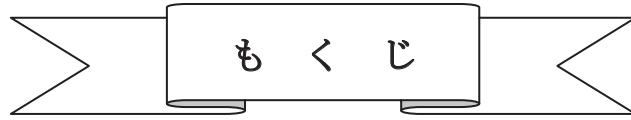
甲南大学経済学部

入門のしおり 2012

Introduction to Department of Economics

甲南大学経済学会

Konan university Economic association



まえがき	1
I 経済学部へようこそ	3
甲南大学経済学部で経済を学ぶ 経済学部長 永廣頭	5
各経済学部教員（五十音順）	8
II 経済学部の先生方に質問（五十音順）	35
III 新入生へのメッセージ	85
「私の大切な4年間」 蒸原洋明	86
「甲南大学で経済学に出会う」 宮本舞	87
IV 新入生のみなさんへ	89
甲南大学経済学会について	91
V 甲南大学経済学会会則	95
総会規程・評議員会規程	97
卒業生会員細則	98

まえがき

入学生のみなさん、甲南大学経済学部へのご入学おめでとうございます。みなさんは、本学に入学し、経済学部生となると同時に、規約によって、《甲南大学経済学会》の会員となることになっています。みなさんが手にしたこの小冊子は、新入生を対象として作られた経済学部への案内書です。

この小冊子は、みなさんが経済学を学んでいく実際のある場を構成する甲南大学経済学部の教員、学生、そして、卒業生の方々の声で「経済学とその周辺を語る」という内容になっています。新入生のみなさんは大学に入学したばかりでまだ経済学部のことがよくわからないと思いますので、この冊子を読んでぜひ参考にさせていただければと思います。

『Ⅰ 経済学部へようこそ』では、経済学部の先生方に様々な視点から、新入生の皆さんへメッセージをいただいています。先生ならではの経験から得た言葉が、皆さんのこれから始まる大学生活の糧になればと思います。

『Ⅱ 経済学部の先生方に質問』では、経済学部の先生方から、素朴な質問に対する答えをいただいています。このページを見ることで、甲南大学経済学部の先生がどんな方々であるのかということが少しはわかるのではないのでしょうか。「あの先生がこんな回答をしている」といった意外な発見ができるかもしれませんし、講義やゼミナールを選択する際の参考になるかもしれません。

『Ⅲ 新入生へのメッセージ』では、甲南大学経済学部を卒業された方々からメッセージをいただいています。みなさんの先輩方はどのようなことをおっしゃっているのでしょうか。

『Ⅳ 新入生のみなさんへ』では、「甲南大学経済学会」という組織について紹介しています。甲南大学経済学会とは、経済学部の教員・学生・卒業生が対等の権利を持って運営している自治組織です。新入生のみなさんの中には、「経済学会という組織はまだ何のことかわからない」という人が多いかもしれません。そこで、「経済学会ってなんだろう？」というみなさんの疑問に対して、経済学会の具体的な活動やみなさんの交流の場である「経済コモンルーム」についても紹介しています。

はじめから読んでいく、好きなところだけ読むなど、利用方法はみなさんの自由です。この小冊子がみなさんの大学生活の手助けになれば幸いです。

2012年4月

甲南大学経済学会

評議員編集委員一同

経済学部へ ようこそ☆



甲南大学経済学部で経済を学ぶ

経済学部長 永廣 顕

「経済を学ぶ」ということ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんはこれから4年間、甲南大学経済学部で経済について学んでいくことになると思いますが、そもそも経済とはいったい何なのでしょう。

私たち人間（ヒト）は、生きていくために必要な財やサービス（モノ）をつくらなければなりません。現代社会では、家計つまり個人が企業に労働や土地などを提供し、企業が財やサービスを生産しています。家計は企業から受け取った賃金や地代など（カネ）で財やサービスを購入して消費し、人間の日々の生活が営まれています。この状況を「市場経済の成立」と言いますが、市場経済は常にうまく機能するわけではなく、程度の差こそあれ混乱が生じる場合があります。そこで、政府が家計と企業をまとめ市場経済を統治しています（この政府の活動を“財政”と呼びます）。このように、経済とは人間が生きていくための活動であり、それをめぐる三つの経済主体である家計・企業・政府の相互関係にもとづいたヒト・カネ・モノの動きなのです。すなわち、私たち人間の生活の営みそのものであるのです。

したがって、「経済を学ぶ」ことは「生き方を考える」ことにつながると言ってもよく、「生き方を考える」ためには経済について幅広く勉強しておくことが必要となるのです。それは、これまでの受験勉強のように正解とされていることを暗記するだけでなく、世の中において自分が置かれている現在の状況と自分が進もうとする将来の目標に即して、自分にとって何が正解であるのかを追究し続けるということなのです。

甲南大学経済学部での「学び」

それでは、みなさんはこれから4年間、甲南大学経済学部で経済についてどのように学んでいくことになるのでしょうか。ここでは、経済学部のカリキュラムの特長である「6つの科目群（グループ）」と「ゼミ」について簡単に紹介します。

1. 6つの科目群 (グループ)

先に述べたように、経済とは人間が生きていくための活動であり、それをめぐる家計・企業・政府の相互関係にもとづいたヒト・カネ・モノの動きです。したがって、経済には学ぶべき数多くの分野があり、みなさんは経済について学んでいく中で、それぞれの分野に興味や問題関心を持つことになると思います。

経済学部では、経済の専門科目を、理論・情報、財政・金融、公共経済、国際経済、産業・企業、歴史・思想の、「6つの科目群 (グループ)」に分け、各科目群において基礎から中級・上級へとステップ・アップする、豊富でバランスのとれた専門科目 (メニュー) を設けています。みなさんは自分の興味や問題関心にしたいが、経済について体系的に勉強することができるようになるでしょう。

2. ゼミ

経済学部では、少人数の学生参加型のクラスである「ゼミ」を、4年間一貫して設けています。

みなさんが入学した直後から始まる「基礎ゼミ I」では、各クラスを経済学部スタッフが、毎週、輪番 (ローテーション) で担当します。みなさんは早い時期から多くのスタッフと顔見知りになり、身近に接することができるとともに、専門分野について研究・教育活動に精力的に取り組んでいるスタッフから強い知的刺激を得ることになるでしょう。

2年次後期からの「ゼミ I・II・III」では、みなさんは卒業まで同じ経済学部スタッフの指導のもとで、自分の興味や問題関心のある専門分野について深く学ぶこととなります。多くのゼミでは、毎年12月に開催されるインナーゼミナール大会 (ゼミ対抗の研究発表・討論会) に向けて、学生たちが意欲的に、熱気をみなぎらせて研究に取り組んでいます。このインナーゼミナール大会 (通称「インゼミ」) は、経済学部最大の伝統的行事であり、昨年度までで41回開催されています。

大学生活においては、勉強がすべてではなく、クラブ・サークル活動やアルバイト、さらにはボランティア活動やインターンシップ、最近では就職活動なども重要であることは言うまでもありません。これらの活動から学ぶことがたくさんあるのも事実です。しかし、経済について体系的でかつ内容の

深い勉強をする機会を大学以外で得ることは難しいでしょう。大学を卒業して社会人になってしまうと、自分の興味や問題関心から勉強ができる機会はほとんどないと言ってよいでしょう。自分がやりたい専門的な勉強を思う存分できるのは大学での4年間しかないのです。しかも、この4年間はあっという間に過ぎてしまうのです。

大学生活のスタートラインに立ったみなさんが、これから甲南大学経済学部で有意義な4年間を過ごせることを心から願っています。

新入生の皆さんへのメッセージ

青木 浩治

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから4年間、この甲南大学経済学部で学生生活を送ることになるわけですが、皆さんはどのような抱負を持って入学されましたか？あれもこれもとやりたいこと一杯の人から、まだ何も決めていない人まで様々でしょう。しかし、まずやるべきことは友達作り。この点は結構重要でして、大学時代のよしあしはこの一点に決定的に依存します。この作業に失敗すると、大学4年間は無駄な時間となり、その場合、大学生活不適應者に陥ってしまうと言っても過言ではありません。その機会はいくらでもありますから、チャンスを捉えてできるだけ多くの友達を作ってください。ただし、高校時代の延長は不可。それでは「群れる」ことでしかありません。違った境遇を経験した人を探すことが重要です。

第二に強調したいことは、今の段階ではなかなか分かってもらえないかもしれませんが、大学4年間はあっという間に過ぎてしまうということです。実は、このことはみなさんの先輩が異口同音に言っていること。言い換えれば、大学生活はとても楽しく、おそらく人生において最も有意義な期間だということです。そのための仕掛けが大学にはあちこちに用意されています。現在は「大学生時代の過ごし方」が問われる時代です。なにもせずボーっと4年間を過ごした人は社会に入る手前でイエロー・カード、場合によってはレッド・カードが突き付けられます（その意味はやがて分かってきます）。意識して「大学でこんなことした、あんなことした」と胸を張って言えることを見つけてください。ただし、アルバイトはほどほどに・・・。

第三に、当然のことなのですが、自分の規律付けを怠らないようにしましょう。これまで親や先生の言われる通りしていればよかった時期はもうおしまい。大学では所定単位の修得以外に学生に課される制約は特にありません。その意味で自由なのですが、同時に選択の結果に対する責任を強く要求されます。その一例が卒業間際の修得単位不足。たった2単位で泣

く泣く留年というケースは決してレア・ケースではないのです。自由には責任がついて回ることを意識しましょう。その訓練をする場が大学生活です。そして第四に、社会常識を付けること。犯罪行為は論外として、やってよいこととそうでないことのケジメを付けるようにしましょう（喫煙マナーがその一例）。

いずれにせよ、皆さんの4年間が有意義であることを切に願っています。

頭を使うことの大切さ

石川 路子

突然ですが、皆さん、これまで受けてきた高校までの授業、楽しかったですか？「すべての授業が楽しかった！」って答える人はあまりいないと思いますが…。今でも強く印象に残っている授業は誰でも一つくらいはあると思います。では、皆さんにとってはどんな授業が楽しい授業だったんでしょうか？「先生が大好き☆」だった授業もあれば、「わかりやすい」「教科書に沿って丁寧に指導してくれる」授業など、それぞれの評価は様々だと思いますが、私は大学ではぜひ皆さんに「頭を使う授業」を楽しんでもらいたいと思っています。

皆さんの中にはNHKの「白熱教室シリーズ」を見たことがある方もいるかもしれません。この番組では、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授やコロンビア大学のシーナ・アイエンガー教授など、非常にユニークな教授たちの講義の様子が放映されていますが、そこでの授業は、まさに「頭を使う授業」です。「あなたはどちらを正義と考えるか？」「あなたはどちらを選択するのか？」など、単に先生の授業を聴くだけではなく、受講生は次々と先生の問いに答えていかなければなりません。はっきり言ってとても「疲れる」授業だと思います。しかし、この授業が終わった後、必ず目に見えて成長した自分がいます。皆さんのなかには、人一倍の知識を持った人を「有能な人」と評価する人もいるかもしれませんが、実は多くの知識を身につけていることが重要なことではありません。一つのことをじっくり考えることができることこそ、皆さんが身につけるべきスキルなのです。

甲南大学でも「白熱教室」に負けないくらい、頭を使う授業はたくさんあります。そして、私たち教える側も、できるだけ皆さんに考えてもらえるような授業を心がけています。皆さんは基礎的な知識を身につけつつ、ぜひそれを使ってじっくり考えることを心がけてください。そして、自らの力で行動できる社会人として成長していきましょう！

僕らはどんどんダメになる？

市野 泰和

少し古い話です。2006年12月12日、Yahoo!ニュースで、読売新聞から配信された次のような記事を見つけました。ちょっとだけ引用しますね。

「◆館内で堂々『いけないんですか』——各地の公立図書館で、雑誌などから写真や記事を切り取ったり、専門書に蛍光ペンで線を引いたりするなど、図書を傷つける行為が増加している。中には、閲覧室で堂々と雑誌を切り取り、職員から注意されると『どうしていけないの』と反論する人もいる。公共の財産を傷つけてはいけないという最低限のルールを破る行為の横行に、図書館側は『社会全体のモラル低下の表れでは』とため息をついている。」

この記事で図書館の人たちが嘆くように、社会全体のモラルは、低下してきているのでしょうか。時代が進めば進むほど、人々のモラルは低くなるのでしょうか。って、そうだとすると、昔の人は、今よりもずっと徳が高かったということなんですかね？例えば、縄文時代の人とか。土器？どんどんあげちゃうよ、いくらでも持ってっちゃっていいよ、なんてね。まあ、縄文時代の話はおいといて、僕らは、どんどんダメな人になっていってるのでしょうか。そうなら、それはとても悲しいことですよ？

なので、ここはひとつ、そうじゃないかも、と考えてみましょう。社会全体のモラルは昔と同じで、まったく低下していない、と想定してみましょう。それで、「図書を傷つける行為が増加している」という現象を説明することはできないでしょうか。

例えば、こんなのはどうでしょう。「公共の財産を傷つけてはいけないというルール」を守れない人は、残念ながら、いつの時代も人口の一定割合はいますよね。もしかしたら、最近の図書館は、昔の図書館よりも、そういう人々を図書館に来させてしまうようなものになってしまっているのかもしれない。あるいは、図書館に来る人々のタイプは昔と同じとしても、最近の図書館では、昔の図書館よりも、「公共の財産を傷つけてはいけないというルール」を守らせるようなしくみが、

うまく機能していないのかもしれませんが。つまり、変わったのは人々のモラルではなく図書館のほうだったとしても、「図書を傷つける行為が増加している」という現象は説明可能だ、ということです。

人々の性質が変わったから、という理由で、人々の行動が変わったことを説明するのは、とにかく簡単です。そんなの、いつでもできます。だからこそ、そういう説明は、できる限りしないでおきたいのです。最後の手段にとっておきたいのです。人々の性質ではなく、人々を取り囲むもの、環境で、何か変わったものはないかを考えてみましょう。それで、人々の行動の変化を説明できないでしょうか。正しいか間違っているかはさておき、つねに、人の内側ではなく、人の外側に、行動の変化の理由を求めること。これが、経済学の基本的な態度です。

財政再建＋成長戦略＋エネルギー政策が日本を救う

稲田 義久

日本企業が海外競争相手に比して、経営環境で負っている大きなハンディキャップを「6重苦」と表現することが多い。(1)超円高、(2)高い法人税率、(3)厳しい労働規制、(4)温暖化ガス排出抑制、(5)海外との経済連携の遅れ、(6)電力不足を指す。

今日、社会保障と税の一体改革が大きく議論されているが、財政再建だけの議論が中心で財政再建の中身と成長戦略がリンクしていない。実は日本経済の現況は財政再建を実現するための許容度が大きく低下しており、その要因の1つが、「6重苦」のうちの電力供給不足である。

具体的に数字で見えてみよう。2009年の原子力発電量は279,750百万kWhであるから、これを火力発電で全量代替すれば単純計算で年3.2兆円程度の追加コストが日本に発生する。平均代替コストはkWh当たり11.5円で計算している。東日本大震災以降(2011年4-11月累計)の貿易動向(通関ベース)を前年同期比で見ると、財輸出は1.7兆円減少し、財輸入は5.2兆円増加している。輸出減には世界経済の低迷が大きく影響している。一方、輸入増のうち、鉱物性燃料輸入増は3.2兆円と輸入増の62%を説明しており、発電燃料代替(原発から火発へのシフト)によるコスト増の影響が明瞭に見られる。日本経済に追加的な燃料コストが発生し、結果的には海外へ所得移転となる。つまり所得成長がこれまでより低下し、担税能力が低下し、先行き財政再建をさらに困難にするのである。

以上の議論からはっきりするように、エネルギー政策の中心は(1)省エネルギーの促進(節電のみならず効率的な熱供給が重要)と(2)化石燃料起源のエネルギーから再生可能エネルギーへの転換とならざるを得ない。財政再建が実現されるには、経常収支が黒字であることが重要なポイントとなるが、現状は厳しくその許容度が低下している。社会保障と税の一体改革による財政再建を進めるためには、成長戦略の議論と分離不可能であり、成長を促進するエネルギー政策とセットでなければならない。

身近な現象からの経済学入門

岩崎 晃

経済学部に入學されたばかりの皆さんは、経済学という学問を分かりにくいと感じているかもしれません。とりわけ「ミクロ経済学入門」や「マクロ経済学入門」といった理論の講義では、理論モデルの単純明快さと実際の経済のかかわりに疑問をおもちかもしれませんね。

もう大昔のことなので正確に出所を思い出せないのですが、私が学部学生のころに読んだある歴史家の論文の一節に、“Economists play with blocks” という経済学者の悪口がありました。本来なら多種多様な要因を考慮しなければいけない経済分析としては、当時のミクロ経済学の分析方法はあまりに単純で、歴史家にとっては経済学者がオモチャのような理論で実際の経済を分析しようとしていると思えたのでしょう。現在の皆さんも、もしかしたら、この歴史家と同じ印象を受けているかもしれませんね。

ただ、私たちの周りには比較的簡単な経済の絡んだ問題がたくさんちらばっています。実際、皆さん自身の行動そのものが、日本の経済の微小な一部を構成しているのです。身の回りを経済学の手で見るようにすれば、経済学の威力が身につくのでないでしょうか。

私の実家は農家でしたが、一時期、キャベツの栽培に熱を上げていました。子供の私も苗の植え付けから出荷にいたる色々な作業を受け持ったものです。高校生の頃から運転免許をもっていたのはそのためです。キャベツは値動きが激しくて、当時でも卸値で1キロ当たり70円もの値がつくときもあれば、1円もしないときもありました。悪天候などで極端な高値がつくと、次のシーズンは暴落する傾向がありましたから、小規模な野菜農家としては用心してキャベツの栽培を減らし、別の作物も栽培しておくといった、リスクを避けることをしたものでした。

もっとも平均的に見て、より低価格でも採算のあう栽培方法を編み出すことも大切ですし、「あの人の作物なら」と生鮮市場で高値がつくようなものを出荷することも大切です。だれにでもできることではありませんが、それだけに高い報酬が期待されるわけなのです。

Nothing ventured, nothing gained.

(思い切って何かをしなければ何も得られない。)

上島康弘

通勤の車窓から海側を眺めると、オーストラリアでの日々が目に浮かぶ。おととしの9月から一年間、シドニー大学に留学した。到着後、大学近くの宿舎に入り荷物をほどくと、突然、不安障害におそわれた。ここで一人で暮らせるだろうかと思うと鼓動が高鳴り、「明日、荷物をまとめて帰ろう」とつぶやいた。数日間、「明日帰ろう」と口にしてその気持ちを抑えた。

不安はそのうちに消えた。スチュアート（学科長）は、毎日のようにランチに誘ってくれた。同僚のビルやジル、ダミアンといっしょに、彼らはジョークをまじえて移民や炭素税の問題、大学改革などについて話した。油断すると突然「ヤスはどう思う？」と聞かれるので、いつもハラハラした。英語をとつとつと話す私は、『千と千尋の神隠し』の「カオナシ」のようだった。にもかかわらず、みんなが仲間に入れてくれた。

意外なほど、同僚の親切に恵まれた。スーザンといっしょに、入植時代の歴史が学べる“ロックス・ゴースト・ツアー”に参加した。マイクは生後、数週間の娘フランキーを研究室に連れてきた。スヤスヤと眠る赤ちゃんの背中を撫ぜると、神聖な気持ちになった。フランクは、国立公園の近くの別荘に招待してくれた。雨のなかを傘もささずに、私をブッシュ・ウォークに連れだした。木々のしたで、葉に水滴を乗せたシダが生き生きしていた。

余暇として、大学の卓球部に入った。あまり強い人がいないので全員を打ち負かす、すると、翌週、どこからかもっと強い人が現れた。ブルース・リーの映画『死亡遊戯』のようだ。それでも勝ち続けると、中国系の人たちの集まるクラブに誘われた。そこで、歯科医のケンや昔、大成建設で働いていたフランク、世界チャンピオンを育てたコーチ、ジョニーらと知り合った。クラブに行くと声をかけてくれて、プレーして汗を流し、おしゃべりして笑った。外国人への先入観が霧散して、たしかに「人は等し

い」と感じた。

帰国する日に、クージー・ビーチに行った。どうしても一度、オーストラリアの海で泳ぎたかった。思った以上に波が荒くて、水着が脱げそうになった。ビーチに寝そべり全身に陽を浴びると自由を感じた。その後、幾度も散歩したサーキュラー・キーへ行って、思い出にシドニーの絵を買った。オペラ・ハウスやハーバー・ブリッジの写真を撮った。時間の許すかぎり、シドニー湾の夜景を眺めた。空港では帰りたくなくて、大泣きするかもしれないと思った。

航空機が離陸すると、思わず「ありがとう、シドニー」と口から出た。機内食で「鮭の塩焼き」が出ると、自然にほほ笑んだ。シドニーではたくさんの友人ができた。自分のパーソナリティと能力に、ほんの少しだけ自信がもてた。『千と千尋…』の歌詞のように、いまは、心のなかに輝くものを見つけることができる。

新入生へのメッセージ

岡田 元浩

甲南大学経済学部入学おめでとうございます。さて、おそらくみなさんの大半にとって「甲南大学経済学部卒業」が最終学歴になることでしょう。つまり、甲南大学での学生生活を完了すれば、みなさんは社会人として巣立っていくということです。中には、その後も大学院に進みたいという抱負をいただき、実際そうする人もいるかと思いますが、大学院生は学部学生と大きく異なり、半ば社会人の仲間入りをした存在だといえます。やがて甲南大学での教育を終え、社会人としての生活が始まれば、一般的にみなさんを待ち受けているのは、俗に世間の荒波と呼ばれる厳しい現実です。社会人になったからといって、ご家族をはじめ、それまで皆さんを守り育ててきた人々の支えがいきなり断ち切られるわけではありませんが、遅かれ早かれみなさんは、矛盾や悲痛、その他あらゆる困難に満ちた世の中を自らの力によって生き抜かねばならぬことになります。だからといって、私たちが自分1人の力だけで生きることは不可能です。そこで肝腎なのは、強い自立心と正しい認識に立つ他者との協同精神です。甲南大学での学生生活でみなさんに身につけてほしいと思うもの、というよりも身につけるべきものは、つまるところ以上の点に尽きる、というのが僕の思いであり、この観点から実際にみなさんと接するよう努めています。僕がこう記すと、社会人としての準備が大事だというのであれば、何より就職だ、学業より就職準備優先で1年生時から臨むべきだ、と解釈する人がいるかもしれません。しかし、それはあたかも、もろい土台の上に家を築くようなもので、一時的にはうまくいっても、やがてはくじかれる破目になるでしょう。就職を含むみなさんの将来のためにも、まずは日々の学業を地道に修め、さらには課外活動をはじめ大学時代ならではの体験に打ち込んでください。

講義の単価？—エレガントな答案を求む—

奥田 敬

【設問】

大学における1コマ90分の講義の(学生にとっての)単価を算出せよ。
ただし、単純化のため、4年間の学費総額は教科書代も含めて400万円とし、その間の生活費や、働いていれば得られた収入は度外視する。

【解法1】

全く無駄なく、最小費用最大便益(?)で卒業を目指す。
卒業所要単位数は128単位であるから、
1単位あたりの単価は、 $4,000,000 \div 128 = 31,250$ (円)
半期15週で2単位なので、
 $31,250 \times 2 \div 15 = 4,166.66\dots$

答え 約4,200円

【解法2】

もったいないから(単位制限とは関係なく)聴講しまくる。
1週間30コマならば通年で
 $30 \times 15 \times 2 = 900$ (コマ)だから、
 $4,000,000 \div (900 \times 4) = 1,111.11\dots$

答え 約1,100円

【解法3】

4年分の在籍料と割り切り、出席は(留年も)気にしない。
1日あたりの在籍料は、
 $4,000,000 \div (365 \times 4) = 2,739.72\dots$ (円)
90分あたりに換算すると、
 $4,000,000 \div (365 \times 4) \div 24 \times 1.5 = 171.23\dots$

答え 約170円

(さて、あなたはどれを選びますか？ 別解があればお知らせください。)

「講義もかんたんではありません」

草野 正裕

甲南大学経済学部での入門的経済学の講義は、現在「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」と呼んでいます。教科書は一冊で伊藤元重『入門経済学』（日本評論社）をずいぶん長い間使っています。私もこの講義をこの教科書で10年ぐらいやってきて、いくつか印象に残っていることがあります。今回はそのひとつを書いてみます。

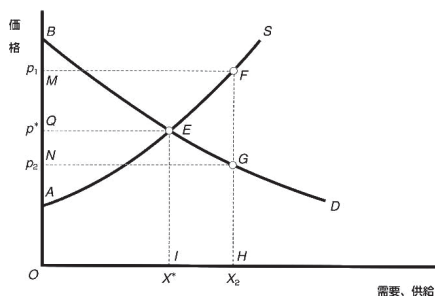


図 16-5 米価問題の分析

この教科書の第2版(現在使っているのは第3版です)、347ページに図16-5米価問題の分析というのがあります。ここに掲げているのはそのコピーです。経済学的な背景は省きますが、伊藤元重先生はいきなり、 $AFM + BGN - NGFM = BEA - EFG \cdots \textcircled{1}$ であると書かれているのです。ここでAFMとかBGNとかいうのは図形の面積を表しています。皆さんもどうしてこうなるのかいちど二、三十分考えてみて下さい。

私はどうしてこんなことが言えるのかわからなかったので、積分計算にもちこみました。曲線BDを $f(x)$ 、曲線ASを $g(x)$ などとおいて、定積分の上端、下端には、 0 、 x_2 を使って抽象的関数のままで、 $\textcircled{1}$ の左辺の定積分を計算します。同様にして右辺も計算します。こうやって左辺と右辺が等しいことが証明できます。積分をご存じの方はいちどやってみて下さい。「インテグラル・・・」とかいいながら黒板に数式を書いていたら(私はポストクの時代に神戸の某中堅予備校で何年も理系の受験数学を教えていたのです)、「かっこいい」と声を上げる学生がいました。私はこんなに大上段に構えてかっこわるいと思っていたのですが。

何年かたったとき、たまたま大家のもうだいぶ前に退職されたS先生と話をしていたら、先生が「あそこはどうしてあんなのかわかりませんか」とおっしゃったのです。心底ほっとしたのを覚えています。それで上のような積分計算の方法をご説明申し上げました。S先生は、「積分ですか」とおっしゃっただけでした。

かくして何年か定積分を書いていたのですが、ある年、うまい方法を見つけま

した。それは『力の算数』か中学数学みたいに、図形の各断片(パーツ)に、 S_1 、 S_2 、 S_3 ・・・のように名前をつけて、かんたんな代数的計算をする方法です。あっという間に証明できました。ためしにこれもいちどやってみて下さい。それまで過去何年か講義で積分計算をお見せしたのが恥ずかしくなりました。もっともこの代数的方法では「カッコいい」という声はかかりませんでした。

新入生のみなさんへ

高 龍秀

甲南大学経済学部に入られた新入生のみなさんを心より歓迎します。新入生になってみなさんはいろんな夢や希望を持っていることと思います。新入生のみなさんに一教員の立場からのメッセージを送ります。

大学に入って、まず、世の中で起こっていることに関心を持ってほしいと思います。日本では 2011 年の大震災があり、政府がどのような復興政策を行うべきかいろいろと議論されています。また、ヨーロッパ各国で財政危機が深刻になり、世の中は大不況になっています。なぜこんな事態が起こったのでしょうか。また、この不況はいつまで続くのでしょうか。皆さんが就職活動をするころにもこの不況は続いているのでしょうか。世の中を見渡せば、このような複雑な問題がいっぱいあります。それは仕方ありません。私たちの住んでいる現代社会がとても複雑怪奇だからです。

皆さんが入った経済学部ではこの複雑な現代社会について、入門的な課題から 1 歩ずつ学んでいきます。皆さんの勉強の対象となる現代の経済は複雑ですから、「答えを簡単に求めない」ことが大切です。大学受験までは、「1 つの決められた答えにいかにか早くたどり着くか」という勉強スタイルだったと思います。例えば社会系の科目では「覚える」科目が多かったと思います。しかし最初に述べた現代経済の問題では、答えは決まっていないものもあります。また、答えが 1 つでないものもあります。ですから大学では、基本的な事実を「覚える勉強」とともに、その知識を武器により複雑な現象を論理的に考えていく勉強をしなければなりません。そのような勉強を 2 年生以上のゼミナールなどの科目で行うことになります。ここでは答えを簡単に「見つける」勉強ではなく、これまで学んだ知識をもとに時間をかけて「より深く考える」勉強が求められています。

みなさんの努力次第で「深く考える力」が付き、大学卒業までの 4 年間で大きく視野が広がることと思います。そのことで、「いい就職ができる力」という次元だけでなく「この社会を生きていく力」をつけることができるはずです。大きな可能性がある未来に向かって頑張してほしいと思います。

経済学部で学び、経済学部で教える

小林 均

大学は経済学部で、大学院も経済学研究科でした。なぜ経済学部へ進学したか、と言えば、「経済がすべての基本という考え方」がおぼろげにあったと思います。それは、小学校の頃、高度成長が始まり、高校1年の年、東京でオリンピックが開催され、それ以前の生活との違いを体感していた、からだと思います。高校に進学し、「政経」「倫理社会」の授業で、「経済学」の言葉の意味を知ったことも、重要な要因と考えます。

「経世済民」「経国済民」、すなわち、「世の中を治め、人民の苦しみを救う」、「国を経営し(治め)、人民の苦しみを救う」に魅力を感じたからです。皆さんは、経済学部に入學し、マクロ経済学、ミクロ経済学を学びますが、経済学の歴史や私の大学時代を振り返ると、いまでは一般的な「マクロ」「ミクロ」という表現も、経済学部の学生時代は、まだポピュラーではなかったです。マクロ経済は、所得分析とか、国民所得分析、巨視的経済学、ミクロ経済学は価格理論、価格分析、微視的経済学、と呼ばれ、2009年暮れ逝った、サミュエルソンの「経済学」が双方を扱う、入門的な必須な教科書とされていました。授業では、マクロ経済学の経済成長論が主流で、高度成長とその原因・帰結・代償(公害)を論じる日本経済論が盛んで、資源配分を論じるミクロ経済、厚生経済学、経済政策論はやや後ろに控え、その後の隆盛を待っている時代でした。3年からの専門ゼミは財政の先生で、ゼミではエドウィンキャナン版の「国富論」を読みました。卒論は「社会と個人」というテーマを先生に伝えたところ、結果的に「道徳情操論」を読んでいた。

改めて、経済学とは何か、と問われれば、「多くの人が幸せになること、そのための制度は何か、を考える学問」というふうに捉えています。経済全体の動きを理解することはもとより、「効率性」と「公平性」という判断基準、「費用」と「便益」との関係、といった基本的な視点から、物事を考察する常識的な学問で、この常識に基づいて判断すれば、それほど誤った結果にならないし、この常識で対応できない対象は、別の判断のための道具を準備すればよいと考えています。

『経済学の学び方 "As you like it"』

小山 直樹

経済学という学問は、理論 (theory)、政策 (policy)、歴史 (history) の三本柱から成り立っています。理論分野では、経済についてとことん論理的に考えます。政策分野では、経済問題を解決するための手段としての政策を考察します。また、歴史分野では、これまで人類が経験した経済現象や経済体制について実証的な視点から考察し、それぞれの時代に生きた経済学者がその時代の経済について考察した結果を学びます。

私が担当する統計入門は、すべての1年次生が必ず履修する科目です。統計学は、経済学の分野では、経済現象の実態を数量的に把握するための方法として、昔から重視されてきました。経済学の理論・政策・歴史のどの分野においても、統計データを通して経済の実態を把握することが基礎になっています。だから、経済学を学ぶ学生諸君は、最低限、統計学の基礎を履修する必要があります。

とは言うものの、私たち教える側（供給サイド）が用意したお仕着せメニュー通りに経済学を学ぶのも結構ですが、学生の側が、何をどう学んでいくかの選択権をもっていることをお忘れなく。つまり、学生のみなさんが、「自分はなぜ経済学を学ぶのか」、「実際に授業に出て学んだ甲斐があったか」を何度でも考えて、『自分にとっての経済学を学ぶ意義』を確認することが一番大切です。そして、卒業するときに、「自分が学んだ経済学はこういうものだ」と振り返ることができれば上出来と言えるでしょう。

最後に、せっかく甲南大学経済学部に入學したのですから、キャンパスライフを十分に楽しんでください。

新書をバッグに入れて

杉村 芳美

みなさんには読書の習慣がありますか。ある新聞社の調査によると、「1ヶ月に何冊本を読みますか」という問いに、「読まない」と答える人の割合が、50%を超えるようになっていました。この割合をみなさんは高いと思いますか、それとも低いと感じますか。

私も、ゼミがスタートするときに、学生たちに同じ質問をしています。残念ながら、「読まない」という答えの割合は、うへの数字よりもかなり高くなっています。本を読む習慣がないと答えた学生に「いつごろから読まなくなった？」と尋ねると、「中学生くらいから」などの答えが返ってきます。なかには、「生まれつき」という人もいました（子どもの頃に、絵本を読んでもらったことを思い出そう！）。「なぜ読まなくなったのか」を尋ねると、「部活が忙しくなって」とか、「ほかにやることがあるから」などの理由があがります。

「大学生なんだから本を読むのは当然」といった野暮な言い方をするつもりはありません。「読書では時間と空間をこえてさまざまな英知と出会うことができるか、自ら考え想像し思いをめぐらす時間をもてる」といった効能を言うつもりもありません。

最も伝えたいのは、生活のなかで読書の楽しみをもたないのはもったいないということです。こう言うと、ほかに楽しいことはいくらでもありますという答えがすぐに返ってきそうです。しかし、とにかく読んでみてごらん面白いから、とだけ言っておきます。

読書を楽しいものにするコツは、ただ一つ。面白い本を読むことです。手始めに、本屋にならんでいる膨大な「新書」のなかから一冊を選んでみてください。きっと自分の関心や興味に引っかかってくる面白い本があるはずです。将来の進路を考えるうえでヒントになる本もあると思います。

バッグにはいつも新書が入っている、そんな習慣をつくってください。

「環境経済学への招待」

柘植 隆宏

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ここでは、自己紹介を兼ねて、私の専門分野である環境経済学についてご紹介します。

環境経済学とは、その名の通り、環境問題を経済学の観点から考える分野です。これからみなさんが勉強される経済学の分析手法を使って、環境問題の原因を探ったり、有効な対策を考えたりします。

経済活動と環境問題は密接に関連しています。私たちは、モノを作るための原材料（例えば石油など）を環境からとってきます。そして、それを使ってモノを作り、消費します。しかし、生産の過程では工場から排煙や排水を出しますし、流通の過程では、運搬用の自動車から排気ガスを出します。消費した後には、廃棄物を環境に排出します。つまり、私たちが行っている経済活動が、資源の枯渇、環境汚染、廃棄物の発生といった環境問題の原因となっているのです。

これまでの経済学よりも分析対象を少し広げて、経済活動を行うために必要となる資源の利用や、経済活動に伴う汚染物質などの排出まで含めて考えるのが、環境経済学です。

経済活動と環境の関係を理解することで、どのようにすれば環境問題の発生を抑えることができるかについても考えることができます。例えば、汚染物質の排出に対して罰金を科したり、汚染物質の排出を減らすための対策に対して補助金を出したりすることなどが考えられます。汚染物質を排出している工場は、汚染物質を出すことでお金を払わなければならないなったり、汚染物質を出さないようにすることでお金がもらえるようになったりしますので、なるべく汚染物質を出さない努力をしましょう。このように、経済学の発想を使うと有効な対策を提案できる場合があります。

残念なことに、環境問題はますます多様化し、深刻化しています。また、学問としての環境経済学はとても新しい分野です。環境経済学には、未解決の問題がたくさんあります。みなさん、ぜひ一緒に環境経済学を勉強しましょう。

解脱／解説

てらお 寺尾
たける 建

2012年4月。甲南大学経済学部に入学者Xさんは、神戸市東灘区で生まれ育ちました。文字通り地元の大学に通うことになったわけです。

入学してから少しの間は、どの建物のどの階のどの教室でどの講義が行われるのかについて、「その時刻になったら、考えなくても身体が勝手にその教室に向かう」というわけにはいきません(ですが、一カ月も経てば、ほとんどの人がそうなります。安心して下さいね)。

ほどなく、Xさんのことを“Yちゃん”のようなニックネームで呼ぶ人も出てくるでしょうが、いずれにせよ、Xさんは、教室にいるときは、ただのXさんです。

Xさんは、教室を出ると —— 「経済学部のXさん」になります。

Xさんは、大学を出ると —— 「甲南大学のXさん」になります。

Xさんは、東灘区を出ると —— 「東灘区のXさん」になります。

Xさんは、神戸市を出ると —— 「神戸市のXさん」になります。

Xさんは、兵庫県を出ると —— 「兵庫県のXさん」になります。

Xさんは、日本を出ると —— 「日本のXさん」になります。

Xさんは、アジアを出ると —— 「アジアのXさん」になります。

このように、“外”に出ることによって「〇〇のXさん」の「〇〇」のところがいろいろと変わるのとはなぜかといえば、“外”に出るたびに、そこでつながる人がいろいろと変わるからです。仏教では、このことを、「六道輪廻」から離れるという意味で「解脱」というのです——という話を、去年、あるインド人から教えてもらいました。

いまから4年後の2016年3月。Xさんは、甲南大学経済学部を卒業します。大学を出ることになるので、そのとき、Xさんは、「甲南大学のXさん」になります。

甲南大学の創設者の平生鈞三郎先生は、「世界に通用する紳士・淑女たれ」とおっしゃっていますが、「世界のXさん」となるためには、世界の“外”に出るほどの「解脱」が必要になるということなのだと思います。

何かに『なる=become』ということ

中島 清貴

本当に何かを実現したければ、
眼の前にある様々な『可能性』を徹底的に切り、
ひとつの『可能性』を突き詰めなさい。
人でありたければ、
切られてしまった可能性に『愛惜の念』をもっていなさい。

学部時代の恩師の言葉です。

僕は経済学者としてメシを食べています。別の職業についていたらどうなっていたかなあ、と想うことは今でもよくありますが、とにかく今は経済学者として生かされています。経済学と言っても分野は広く、ミクロ経済学、計量経済学、金融論、財政学、労働経済学、医療経済学、環境経済学、経済史、経済学史など数え上げればきりがありません。僕が経済学者として生かされているということは、とりもなおさず僕には専門分野があるということです(ちなみに、僕の専門分野は金融論と計量経済学です)。

つまり、経済学者として生かされていることと引き換えに、僕は自分の専門分野以外の分野を、好むと好まざるとに関わらず切ってしまうということになります。経済学者以外の職業の可能性を切り、専門分野に閉じこもりながらその可能性を徹底的に突き詰める努力をすることで、僕は経済学者として世間から生かされているわけです。

一方、経済学者としての可能性を突き詰めるだけで、他の可能性に対する想いや配慮がなければ、僕には『人としての大事な何か』が根本的に欠けていると言わざるをえません。この世には、経済学や自分の専門分野以外にも想いを馳せるべき様々な可能性に満ち溢れているからです。

というわけで、甲南大学では、

授業の時間内は『頑固な経済学者』として、
授業の時間外は経済学以外の可能性に想いを馳せる
『気の多い人間』として、

皆さんにお会い出来ることを心から楽しみにしております。

新入生の皆さんへ

林 健太

このたびは、甲南大学経済学部へのご入学、誠におめでとうございます。

皆さんが生まれ育ったこの 18 年の間に、世の中のあり方は大きく変わりました。具体的には、インターネットが普及したことで、コンピュータとインターネットが生活の中心となる、いわゆる「情報社会」へと突入したのです。

情報社会においては、パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使いこなし、いかに早く必要な情報にたどり着けるかが勝敗を分けることになります。情報を持つ人と持たない人、あるいはデジタル機器を使いこなせる人とそうでない人との間の格差はますます広がり、特に3年後の就職活動の際には、顕著な差となって現れることでしょう。だからこそ大学生の間に、最低限のスキルとマナーは身につけていただきたいと思います。

また、大学時代というのは、将来どの国でどのように生きていくのかについて、じっくりと時間をかけて考えられる貴重な時期でもあります。様々な情報がインターネットを介して手に入れられるようになりましたが、それでも実体験に勝る情報収集はありません。日本は便利で清潔で快適な国です。しかしながら、その素晴らしさが、この国に住み続けていると、なかなか実感しづらいものです。ぜひ海外留学制度等を利用し、大学生活4年の間の半年だけでも外国の空気に触れ、海の向こうから日本を眺めてみてください。きっと新たな発見があることでしょう。もしかしたら、日本の外で暮らす方が自分には合っていると感じることもあるかもしれませんよ。

最後になりますが、人生は楽しんだもの勝ちです。先行きの見えない時代だからこそ、自分が本当に好きなことや得意なことは何かをよく見極め、一人でも多くの人が、その才能を生かせる仕事に就けることを願ってやみません。いち早く己を知ること、それこそが情報社会を生きていく上での重要なキーワードだと確信しています。

雑食性の学問のすすめ

藤本 建夫

私は健康と体力の維持をかねて小さな貸し農園でわずかばかりの野菜を育てている。種類は春夏野菜はトマト、きゅうり、なす、秋から春にかけては大根、たまねぎ、スナックエンドウ、昨年からはイチゴなど、定番中の定番ばかり。しかし肥料不足なのか、あるいは種まきや苗の植え付け時期が悪いのか、また世話が行き届かないために虫によく食べ荒らされ、収穫は余り思わしくない。しかも同じものを作っていると連作の問題もある。しかし味のほうは、妻と二人の労働が投下された分だけ特別な、つまり主観的な付加価値がつき、うまいと納得している。それにとれとれの自然の香りは何とも言えない。

暮れから書斎の整理を始めた。というのも狭いにも関わらず、かなり適当に本を書架に詰め込み、さらに身体が不自由で高齢者に近づいているのでこの悪癖がさらに募って、今ではどこに置いたかわからなくなるケースが多くなった。それは大学の研究室でも同じである。息子夫婦が帰ってきているのを幸い、本の整理をしようということになった。捨てられる書物にはそれぞれ思い出があり、また何かを使うこともあるのではと頭をよぎることがあっても、かなりの本が廃棄の対象となった。専門のドイツ関連の書物についてはこれまでの研究と離れてしまいそうになるので、今回は決心がつかず、結局レンタル倉庫の片隅に収納されることになった。

今回本の整理をしながら、自分の研究史を振り返って見て思うのは、もっと自然の香りを出せなかったのかということである。もっと様々なことに知的食欲さ、言わば知的雑食性が足りなかったようだ。専門という狭い畑でついつい連作を繰り返してきたようにも思う。グローバル化が急進展する現代、何もかもが複雑怪奇になってくるとその感がいっそう強まる。

もし今新入生に返ることができれば、今抱いている忸怩たる思いをもってスタートラインに立ちたいものである。

2つの言葉

古川 顕

私は大学の教養課程で、第2外国語としてドイツ語を学んだ。しかし、それ以来ドイツ語にはまったく縁がなかったので、今では単語すらほとんど覚えていない。それでも次の2つの文章は例外だ。

Tanze hier, hier ist Rodos.

Es irrt der Mensch, so lange er strebt.

前者は、「ここで踊れ、ここがロードスだ」という意味である。ロードス（あるいはロドス、英語名 Rhodes）というのは、現在エーゲ海南部のギリシャ領の島で、ヘレニズム文明の中心となった島である。理想郷とでも解釈したらよいだろうか。担任の先生はロードスの説明はされたが、この一文の意味するところについては、何もおっしゃらなかったように思う。それぞれの学生の解釈にゆだねたのだろう。私は、「今この場所で精いっぱい努力せよ。ここが理想郷なのだ」と解釈したものだ。私は不器用にできているのか、私なりにこの言葉に忠実に生きてきたつもりである。

後者は、「人間努力する限り迷うものである」という意味である。これは、『ファウスト』第1部の「天上の序曲」に登場する有名な言葉である。先生は、教科書には載っていなかったものの、『ファウスト』第2部最終幕の、「絶えず努め励むものをわれらは救うことができる」という意味の言葉も一緒に教えてくれたように記憶している。高安国世というその先生は、リルケ研究で知られ、歌人としても著名であった。

上の2つの短い文は、習ってもう半世紀近くなるというのに今でも不思議によく覚えている。よく覚えているというよりも、何事にも怠惰な私にとって一種の座右の銘のような存在となっている。あるいは、私の人生の指針となっていると言っても決してオーバーではない。怠け心が起こるたびに、これらの言葉を思い出す。ドイツ語を少しかじっただけだが、勉強で得たものは人を動かす力をもっている。

経済学部生へ

森 剛志

謙虚に学び、社会で起こっていることに興味を見出そう！

大学生の学力の低下が年々深刻になっている。ある国立大学工学部のある授業の試験問題で例年と変わらない問題を出したところ、4割の学生が合格点に達しなかったという。私立大学の学生1500人を調査した結果、2割の学生が「計算のとき、かけ算割り算を、足し算引き算よりも優先する」というルールを知らなかった。

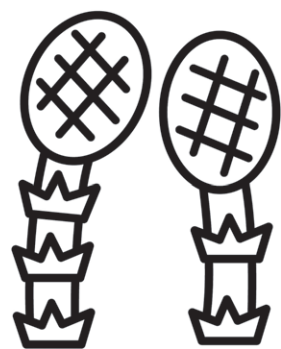
「算数なんて、社会に出たら関係ないじゃないの！」「こんなもの社会で何の役に立つの？」とあって、高校までに疑問を感じて学んでこなかった方はいませんか？学問とはその利用価値を問わず、学べるものは一生懸命に学ぶようにしなければあとでひどく後悔することがしばしばあります。最近では理系出身の総理大臣や副総理も続々とでています。政治の世界に数学は必要ないと感じられるかもしれませんが、数学の教えてくれる論理的思考法は、経済学にも活用されていて非常に重要です。

このようにえらそうなことをいう私も「統計学」や「経済理論」など大学院に入るまでまったく勉強せずにいました。でも、いまでは学生さんに教えています。

学問は学ぶのに遅いということはありませんが、早ければ早いほど容易に身につきます。ぜひ、早くから謙虚に学ぶという姿勢を身につけ、それがすでに身に付いている人は持続してください。

また、この20年間日本経済は長期の不況にありましたが、この不況はまだまだ長く続く模様です。こうした時こそ、社会で起こっている出来事をどのようにしたら解決できるか、経済学は教えてくれます。社会で起こっているさまざまな出来事を新聞や雑誌でどのように述べられているか興味を持つようになれば、あなたも立派な大学生となったと言えます。

バイトもいいですが、のんびりとした何もない時間を十分つくって、読書と友人や先生との会話をして大学生活を満喫してください。



経済学部 先生方に質問 (50音順)





青木 浩治 (あおき こうじ)

神戸大学大学院経済学研究科博士課程
国際経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

難しく表現すると現代の国際貿易と海外直接投資、および為替レートの理論・実証研究です。まっ、国際経済の何でも屋さんといったところでしょうか。過去 10 年間では躍進著しい中国に的を絞った地域研究も行ってきました。ごく最近の関心は昨今の異常な円高と国際金融危機です。

2. 先生の自己PRをお願いします。

就活をやっているわけではありませんので、自己PRと言われても困りますネ。強いて言えば、「一見厳しそう（これは妻の評価です）、けど本当は違います」といったところでしょうか。

3. 経済学の面白さは何ですか？

広く世間の動きを理解できることでしょうか。学生の皆さんがそこまで到達するには少し長い修養が必要で、4年生ぐらいになってなんとかだと思いません。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

普通の真面目な(?)学生。3年生までは、皆さんと同様、あまり勉強に熱は入っておらず、課外活動に熱中していました。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

講義とゼミの連続で、週末はヘトヘト。もっぱら体力の回復のため、インドアでの読書や録画した好きな TV 番組の観賞をしています。その他は妻と買い物でしょうか。商売柄、野菜や果物、コメなどの産地と値段に目を凝らしています。歳はとりたくないものですネ。

6. おすすめの1冊を教えてください。

生源寺眞一「日本農業の真実」ちくま新書、2011年。少し専門的でマニアックかもしれませんが、日本農業が直面している困難な政策問題をヴィヴィッドに記述しています。食料・エネルギー・医療といった通常の経済学の教科書では十分触れられていない（だけどとても重要な）問題を考える上で絶好のケース・スタディとなっているように思われ、とても勉強になりました。

7. どんな学生を評価しますか？

①手抜きをせず、最低限のモラルを持っている学生（例えば、平気で自主休講し、しかもそれをなんとも思っていない学生は評価できません）、②積極的な学生（先生の指示がないと動こうとしない指示待ち学生、席を温めていただけのお客様学生は評価できません）。もちろん熱心に勉強する学生も大いに評価します。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

まず仲間作り。その上で大学の様々の仕掛けをうまく活用すること（先輩がその事例を与えている可能性が大です）。



石川 路子 (いしかわ のりこ)

大阪大学大学院国際公共政策研究科
博士後期過程
都市経済学、地域経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

都市や地域の抱える様々な問題を経済学のアプローチから捉え、検証していくことが私の研究の大きなテーマです。今は医療や介護の地域格差の問題を扱っており、医療や介護の格差がどれほどの社会的損失を生み出しているのかについて経済学的に計測することを試んでいます。

2. 先生の自己PRをお願いします。

経済学部唯一の女性教員です(笑)ただ残念ながら「女性らしい」とあまり言われたことがありません…。大学は「工学部」に進学したからでしょうか？「表裏がない」性格で、誰に対しても「こんな感じ」です！「こんな感じ」が気になる人は、ぜひ話に来てください☆

3. 経済学の面白さは何ですか？

すごく「たわいもない」ことでも、真面目に分析し、議論することができる「ツール」を学ぶことができる場所だと思います。本当にたくさんのテーマを分析できる経済学は楽しいと思います！

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

一言で言うと「イジられキャラ」でしたね(笑)経済学部よりも女子比率が低い工学部では「さぞかしモテモテだったでしょ？」と言われてたりもしますが…。本当に工学部女子はモテない(モテなかった?)です！！でも、男友だちの数は誰にも負けないかも？

5. 休日の過ごし方を教えてください。

趣味はダイビングなので、休暇が取れば沖縄などでダイビング三昧な日々を送っています。普通の休日は…のんびり家で過ごすことが多いですね。ちなみに「ちょっとカッコいい」自転車にも乗っています（笑）今年はずーろ・ド・宮古島 2012 に出ようと密かに画策しています。

6. おすすめの1冊を教えてください。

勉強の本をお薦めしようかとも思いましたが…木下半太の「悪夢の…」シリーズがお薦めです☆「悪夢のエレベーター」はドラマや映画、舞台にもなっていますよ。個人的には特に「悪夢の観覧車」（幻冬舎文庫）が好きですね。

7. どんな学生を評価しますか？

やる気と元気のある学生さんです！「大学生なんだから思いっきり遊びたい！」という気持ちもよくわかります！私もそうでした！が、そのモチベーションをほんの少しでも大学に振り向けてくれたらなあ…と思います。授業で得られる「使えるネタ」って実はたくさんありますよ！「女性にモテる男性の条件」の一つは「話の幅」が広いこと。そのためにもぜひ授業を活用してみてくださいね☆（もちろん女子もね♪）

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

皆さんの中で「経済学に興味を持って」入学してきた方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか？大学で学ぶ経済学は、高校の時の経済とはかなり違います。経済学を学ぶことは、すなわち「人の動かし方」を学ぶこと。経済学は、社会人にとってとても重要な「アイテム」なんです！経済学の知識は、必ず社会人として羽ばたくための自信につながりますから、ぜひ楽しみながら知識を身につけてくださいね☆



市野 泰和 (いちの やすかず)

Ph.D. program, Department of Economics,
University of Washington

国際通商政策 応用ミクロ経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

国際経済学とミクロ経済学の理論を研究しています。今、取り組んでいる／取り組もうとしている研究テーマは次の3つです。

- 自由貿易から得られる利益を、実際にすべての人々に分配することはできるのか。できるとすれば、それはどんなやりかたか。
- 一国の経済厚生からではなく、世界の経済厚生から考えて、ある国が貿易保護をするほうが自由貿易よりも望ましいということはあるのか。
- 市場がうまく機能する、とはどういうことなのか。

2. 先生の自己PRをお願いします。

人前で話すことは、結局のところ、ライブの芸です。聞いている人たちへのサービスです。おもてなしです。だから僕は、授業で、受講生をもてなすことをいつも強く意識しています。具体的には、僕は次のようなことをしています。

- 受講生が今まで考えたこともなかったような、そして、答えたい気持ちになるような、できるだけ魅力的な質問を作って尋ねます。例えばこんなもの。「『あなたがそばいれば、ほかには何もいらぬ』と言ってくれる恋人が、今、バイトに行ってしまったら、あなたのそばにいないのはなぜ？」
- それらの質問への答えや、授業内容への疑問・コメントなどを受講生一人ひとりに紙に書いてもらって（その紙を「リアクションペーパー」と言います）授業終了時に集め、僕からの返事やコメントを添えて次の授業開始時に受講生一人ひとりに返します。

- 前回の授業でのリアクションペーパーに書かれていたことなかで代表的なもの、興味深いものを授業中に紹介して、クラス全体で共有します。
- 新しい内容を講義するときには必ず、なぜそれを学ばなければならないのかをちゃんと説明します。将来、経済学の研究者になるわけでもないし公務員試験などを受けるわけでもない、平均的な甲南大学生にとって、経済学を学ぶことにはどんな意義があるのかを、できるだけ具体的に明確に示します。
- その時々で、世の中で起こっている出来事、僕が考えていること・研究していることを、授業の内容と関連づけて話します。

僕は、授業をするのが好きです。僕にとって、授業をすることは大きな楽しみです。その楽しみがこれからもずっと続くように、僕が自分の授業に飽きてしまわないように、自分自身をもっともっと豊かにするために、僕は、知らないことを勉強し続けよう、研究を続けよう、と思っています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

経済学は、人のすることをすじみちだてて理解する方法を与えます。「なぜあの人はあることをするのか？」という問いに対して、「うーん、アホやからちゃう？」という答えだけは便利すぎるから使わないでおこう、という、自分で自分を縛る慎み深さが経済学にはあります。その一方で、人のすることならなんでも、それが経済活動と全然関係なさそうなことでも、すべてを経済学的に理解してしまおうとする厚かましさも経済学にはあります。慎み深さと厚かましき、その二つを分かち難く併せ持っているところが、経済学のおもしろさだと僕は思います。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

生意気でいちびりでびびりで、ひねくれててダサくて幼くて無防備でした。あ、今でもそうかも。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

お買い物に行く。おいしそうなお店にご飯を食べに行く。すてきそうなカフェに行く。旅行に行く。演劇を見に行く。本を読む。

6. おすすめの1冊を教えてください。

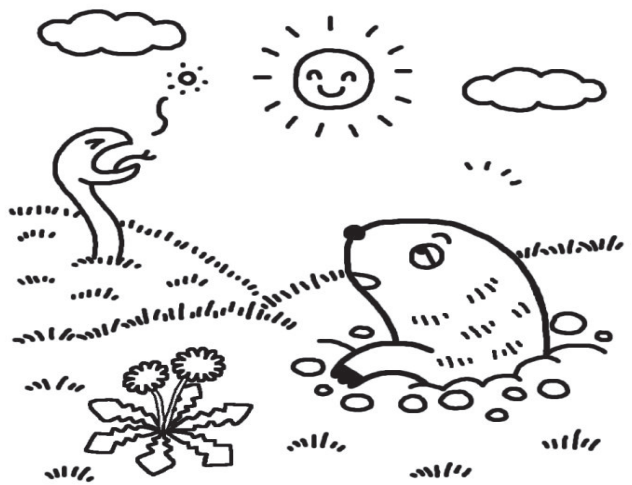
すみません、2冊紹介しますね。伊藤計劃の、『虐殺器官』と『ハーモニー』です。どちらも、ハヤカワ文庫から出ています。

7. どんな学生を評価しますか？

まじめで、ひたむきな人が好きです。自分もそのようであろうと思っています。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

本をたくさん読んでください。できれば、あんまりバイトはしないほうがいいと思います。





稲田 義久 (い나다 よしひさ)

神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程
マクロ経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済予測や環境問題の分析です。最近は関西の成長戦略に興味があります。

2. 先生の自己PRをお願いします。

景気の先行きの見方や関西経済の成長戦略を研究していますので、興味のある方には気軽に伝授できます。

3. 経済学の面白さは何ですか？

理論や分析結果の応用がある程度実際の社会に役立つことでしょうか。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

中・高一貫の楽しく、精神的に充実した学生生活を送りましたので、大学時代の前半は社会に出た場合どのようなキャリアを選ぶかに頭がいっぱいでした。後半はそのための準備に時間を費やしていました。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

基本的にはあまり休日はありません。希少な休日ですから、できるだけ体を動かすことを考えています。

6. おすすめの1冊を教えてください。

植田和弘+梶山恵司『国民のためのエネルギー原論』日本経済新聞出版社
2011年12月

7. どんな学生を評価しますか？

何にでも興味を示す行動的な学生を評価します。でも、基本的にはまじめな学生が大好きです。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

1回生の時は大学が日々のベースとなるように心掛けてください。まず講義に出て食堂でランチをとりまた講義に出る生活です。この生活がスムーズにいくためには友達作りが必須です。様々なタイプの友人作りに心がけてください。例えば、能力ではとてもかなわないが、自己向上には良い友達。発想がよく似ていていろいろなことを議論できるタイプ。卒業を確実にするためには、必要なタイプ等々。数は少なくともバラエティーに富んだ友人を作ってください。



岩崎 晃 (いわさき あきら)

京都大学大学院経済学研究科
博士課程・単位取得満期退学
産業組織

1. 先生の研究テーマは何ですか？

企業がどのような手段を使って互いに競争しているかに関心があります。公正でない競争手段をとる場合もありますし、競争を避ける場合もあるようですね。

2. 先生の自己PRをお願いします。

「理論も実証も」というのがモットーです。理論的に矛盾がなくても、意味のない結論しかない理論モデルには関心がありませんし、理論的になにか仮説めいた論理の展開がないと、面白みを感じません。

3. 経済学の面白さは何ですか？

比較的単純な仮定に基づいて、応用範囲が広いモデルを構築しているところでしょうか。ただし、アイデア一杯という意味では、達人の経営学者が書くものも非常に面白いと思います。経済学、経営学とあまり目くじらをたてて区別するのもおかしい、と思っていますが・・・。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

とてもおとなしい学生でした。私の生まれた辺りでは、大学進学率は同世代の1割程度でしたから、兄弟3人が揃って大学に進学できたのは両親の努力の賜でしょうね。そんな訳で、親には感謝していましたから、勉強しているか、家の農作業を手伝っているかくらいですか。他に、あまりすることもなかったものですから。そろそろ大学紛争の時期が近づいていましたが、私は遠ざかっていました。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

根が生えたみたいに1箇所には座り込んで、好きなジャンルの読み物です。そこで、家族からは「運動、運動」と言われます。たまには、近所を散歩しますが、犬がうるさいので億劫ですね。奈良公園のような広々とした公園が近くにあると良いのになあ、と思います。

6. おすすめの1冊を教えてください。

経営学の分野ですが、楠木建『ストーリーとしての競争戦略—優れた戦略の条件—』（東洋経済新報社、2010）は面白かったですね。

7. どんな学生を評価しますか？

なにか一生懸命にしている学生さんを好みますね。長くもない自由な若い時代を、好きなことに一生懸命打ち込んで過ごしているなんて、近くから見ただけで、いいなあと少しうらやましく思いますね。自分にその若さがなくなっただけに、とくにそう思います。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

大切にされることと甘やかされることとは違います。大学で周りの人たちから大切にしてもらってください。また、その人たちを大切にしてくださいね。



上島 康弘（うえしま やすひろ）

大阪大学経済学研究科博士課程
労働経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

労働経済学。経済のしくみのなかで労働条件（給料や労働時間など）がどのように決まるのかを考える分野です。

2. 先生の自己PRをお願いします。

思いつきません。

3. 経済学の面白さは何ですか？

事実の背景（因果関係）が、簡単な図や式を使って説明できるところ。それが正しいとは限りませんが。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

普通の大学生。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

テレビを観たり、本を読んだり。

6. おすすめの1冊を教えてください。

井上靖「氷壁」（新潮文庫）。昨年、この本を息子にプレゼントしたら、吸い込まれるように読んでいました。読み終わると「文章がスゴイ」などと、生意気なことを言いました。

7. どんな学生を評価しますか？

礼儀正しい人. とくに、「ありがとう」と「ごめんなさい」の言える人.
そんな先生や友人を探してください.

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

“Nothing ventured, nothing gained.” (思い切って何かをしなければ
何も得られない.) まず勇気を出して, 部やサークルに入ってください.
次に, 外国語を勉強して海外に留学してほしいと思います.



永廣 顕 (えひろ あきら)

東京大学経済学研究科応用経済学専攻博士課程
財政学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

現代日本の財政・金融政策の政策形成過程を解明することが現在の研究テーマです。現代日本の財政・金融政策の特質は 1920 年代から戦時期にかけて形成されたのではないかという問題関心からこのテーマを選び、大学院時代から研究を続けています。

2. 先生の自己PRをお願いします。

「熱しにくく冷めにくい」性格です。何事にも時間をかけて慎重に取り組み、やり遂げるために粘り強く最後まで努力するタイプだと思います。

3. 経済学の面白さは何ですか？

ヒトの動き、モノの動き、カネの動きを分析し、それらを体系化することで、世の中全体を見る目が養われるところです。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

生活の中心は、大学のオリエンテーリングクラブの活動でした。週末になると各地の野山を駆け巡っていました。クラブの有志でチームを組んで駅伝大会にも毎年出場しました。学業の方は、ゼミと興味のある講義に積極的に参加していました。ゼミでは、勉強よりもゼミ合宿やコンパでの思い出の方が多いです。クラブもゼミもメンバーとの交流は現在も続いています。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

いわゆる「家族サービス」が中心で、買い物をしたり、ドライブをしたり、掃除をしたり、読書をしたり（マンガを含む）、音楽を聴いたり、スポーツ観戦をしたり、ネットサーフィンをしたり・・・といったところでしょうか。

6. おすすめの1冊を教えてください。

池上彰『伝える力』（PHPビジネス新書、2007年）。相手に物事をわかりやすく説明するためのコツが書かれています。

7. どんな学生を評価しますか？

はじめをつけて行動できる学生を評価します。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

勉強やクラブ・サークル活動など、「甲南大学」の中で自分の興味、関心を見つけて、4年間それに精一杯打ち込みましょう！大学の授業は難しいと思いますが、前向きに取り組むことでものの見方が広がり、必ず自身の成長につながると思います！



岡田 元浩 (おかだ もとひろ)

同志社大学院経済学研究科博士後期課程
経済学史

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済学史。現在は労働理論・思想の歴史展開に関する批判的研究に取り組んでいます。

2. 先生の自己PRをお願いします。

「明日死ぬがごとく生き、永遠に生きるがごとく学べ(Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever)」(Mohandās Karamchand Gāndhī)を座右の銘としています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

「面白くはないが、ぜひとも学んでおくべきもの」という点で、面白い。つまり経済学の勉強には忍耐が必要です。楽を追い求めているは、経済学は身につきません。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

Very mediocre. そして chaos (混沌) そのものの大学時代でした。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

以前は趣味の登山や写真撮影を楽しんでいましたが、現在は休日も大半は研究・校務と家事に追われています。その合間に好きな音楽を聴いたり、気分転換に琵琶湖 (私は滋賀県に住んでいます) の景色を眺めに行ったりしています。

6. おススメの1冊を教えてください。

とにかく、読書をする習慣を身につけてください！若い時代に読書習慣を身につけないと、はっきり言って人生アウトです。動機は何でもよい（趣味、身近にある、他人からすすめられた）ですから、とにかく本を読んでください。「おススメの一冊」はそれができた後で十分です。

7. どんな学生を評価しますか？

「十人十色」と言われるように、学生一人一人の個性や持ち味も多様で、ひと言では言い表せません。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

読書習慣とともにぜひ心がけてほしいこと、それは「公私の区別」です。何より私的な人間関係を公の場（特にゼミ！）に持ち込まないこと。世の中のありとあらゆる不正の根源に「公私混同」アリ！



奥田 敬 (おくだ たかし)

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程
経済学史

1. 先生の研究テーマは何ですか？

「18世紀ナポリ啓蒙」

もう少し具体的にいえば、アダム・スミスから始まる(とされている)のとは違う〈経済学〉の可能性(初心)の探求。

2. 先生の自己PRをお願いします。

上のような珍しいこと(?)をやっています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

得体の知れぬところ。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

経済学部生らしからぬ〈経済学〉部生でした。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

子どもたちと遊ぶか、本を読んでいます。

6. おすすめの1冊を教えてください。

アジア(中国)が気になる人には『論語』を

西洋(アメリカ)が気になる人には『聖書』を

そして経済が気になる人には(マルクスの)『資本論』をお薦めします。

7. どんな学生を評価しますか？

古典を読む学生。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

《Es irrt der Mensch, solang' er strebt.》 (Goethe, *Faust*)

(人間は、努力する限り、迷うものだ。)



草野 正裕 (くさの まさひろ)

神戸大学経済学部 同大学院経済学研究科
日本経済史

1. 先生の研究テーマは何ですか？

数量経済史、近世日本マクロ経済史ということになっています。もう少し具体的に書いてみます。まず近世日本の物価や賃金、反当収量、貨幣相場などを古文書などから拾い集めます。これらをコンピュータ処理して、近世日本の市場経済や地域差について構造と変動といった観点から、経済理論を手掛りにもっともらしく理屈をいうということになります。このテーマを選んだ理由は、歴史史料を読んで整理すること、数学、統計学、経済理論、コンピュータなどが下手の横好きで、それでもできるだけ歴史を史実にもとづいて論理的に構成したかったからです。

2. 先生の自己PRをお願いします。

タイプ理系かもしれません。たとえば、コンピュータ・プログラミングです。以前研究の過程で、物価系列の山と谷をグラフ上で自動的に識別したいと思ったことがありました。数学的には、極値を見つけることと同等ですが、長時間の格闘が楽しめました。ひらめいたアイデアを、悪戦苦闘しながら、ついに具体的なかたちに表現できたときの喜びは、何ものにも代え難いものがありました。即ち明確なかたちを持たない思いつきにすぎないものを、プログラミング言語をもちいて明晰に表現することは、知的興奮を伴うほとんど無上の楽しみだったように思います。

3. 経済学の面白さは何ですか？

申し訳ないのですが、経済学がおもしろいと思ったことはなかったのです。私は歴史と物理・数学が好きでしたが、経済学にはあまり興味が湧きませんでした。それでも経済学部に進学したのは、商社に就職して外国に行きたいと思っていたからです。私にとって経済学とは、人間とは何か社会とは何かということを考えてときの「ひとつの」手掛りだったのではないかと思います。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

クラシックギターの練習、麻雀、将棋。しかしいずれも上達しなかった。勉強もかなりしました。サークルはテニスとマンドリンクラブに所属していました。現在、甲南大学マンドリンギタークラブの顧問をしています。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

読書と音楽。ドライブと旅行。物理・数学とコンピュータ・プログラミング。碁・将棋・麻雀。蝶。子供……。最近よく聞いているディスクは、モーツァルトやベートベン等々の弦楽四重奏曲全集です。おすすめは、モーツァルト（アマデウス弦楽四重奏団）「弦楽四重奏曲 第 15 番 ニ短調 K.421 (417b)」の特に第 4 楽章 Allegretto ma non troppo。

6. おすすめの 1 冊を教えてください。

そういうものはありませんが、あえて言えば

- ① ヒルティ『眠られぬ夜のために』（岩波文庫）
- ② 『徒然草』
- ③ サムエルソン『経済学』（岩波書店）

①、②は若いときに面白いかどうかはわかりません。

7. どんな学生を評価しますか？

そのような発想はありません。甲南経済に入学された方なら、「来るものは拒まず、去る者は追わず」というスタンスです。教育面で何かお役に立てればと思っています。ゼミ募集に際しては、試験も面接もやっていません。むかし、志望者が募集定員を超えたときは、抽選で決めていましたが、さすがにこれは良くないと思い、その後は成績を参考にしています。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

経済学を学ぶと多くの経済の知識が得られ、さらには経済現象を論理的、体系的に考えることができるようになると思います。お望みなら結果として、日常の経済活動をうまくやってゆくのに多少はお役に立つでしょう。





高 龍秀 (こ よんす)

大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程
アジア経済論

1. 先生の研究テーマは何ですか？

広くみるとアジア経済。その中でもサムスンなど韓国の企業を研究しています。

2. 先生の自己PRをお願いします。

大阪生まれの、大阪育ち。韓国人ですが授業ではつつい関西弁が出ます。甲南大学で教員をして21年になります。大講義室の授業も少人数のゼミも学生と一緒に楽しいクラスにしたいと思っています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

経済学の面白さは社会をより広く、深く見られるようになることだと思います。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

韓国語や韓国の歴史を勉強するサークルで多くの仲間ができました。4年になって、サークルのリーダー的な役割を担うことになりましたが、うまく運営できず悩んだことがあります。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

あまり趣味がない方です。息子が高校ラグビーをしているのでその試合や練習を応援に行ったりしています。

6. おススメの1冊を教えてください。

金俊行『現代アジアとグローバリズム』東洋経済新報社。

7. どんな学生を評価しますか？

自分でよく考える学生。考えていることをしっかりしゃべれる学生。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

大学時代に大切な友達を作りましょう。授業にはなるべく出て先生の話をよく聞きましょう。



小林 均 (こばやし ひとし)

一橋大学大学院経済学研究科
経済政策及び経済事情専攻博士課程
公共経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

持続可能な社会保障制度と税制

2. 先生の自己PRをお願いします。

PRするほどの必要性のない段階なので、自己の性格について言うと、クール（現代の意味での「かっこいい」ではない）、あるいはさっぱりしています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

「エッセイ」にありますように、経済学を「多くの人が幸せになること、そのための制度は何か、を考える学問」というふうに捉えています。そのために、経済全体の動きを理解するとともに、「効率性」と「公平性」という判断基準、「費用」と「便益」との関係、といった基本的な視点から物事を考察する姿勢すなわち常識で判断すれば、それほど誤った結果にならないところが「面白さ」と思います。この常識で対応できない対象は、別の判断のための道具を準備すればよいと考えています。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

いわゆる「大学紛争」の時代に大学生の生活を送りました。「いかに生きるか」、言い換えると「どんな職業に就くか」を考えながら、勉強を行い、本を読みました。2年生の正月に将来（現在の職業）の道を決め、4年の秋の試験に備える勉強とそれまでに「やってみたい」（＝1年間の朝刊・夕刊の新聞配達と2週間のヨーロッパ旅行）ことを同時並行で行いました。いわゆる「就活」はまったくしていません。無事、試験に合格して、今日があります。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

書斎の整理、自己の趣味のオーディオのチェック（ハイレゾ・DSD音源に関心を持っています）、ショッピングと散歩、月一回ほどスカイツリーの進捗状況と混雑現象？のチェック。

6. おすすめの1冊を教えてください。

自己の関心や話題になっている本を読むことを重ねれば、自ずと自己が形成され、次第に読む本が出来てくるものです。

7. どんな学生を評価しますか？

やる気があって、努力する人。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

経済的な特別な理由を除いて、講義期間中アルバイトは週3日まで。一生その時々と与えられた条件の下で文章を書く必要性に迫られるものです。そのためにも本を読むこと、次第に文章は書けるようになるものです。大学生生活は短いです。将来の目標を早めに設定し、それに向けて、計画を立て、我慢強く努力すること。人生その繰り返しです。



小山 直樹 (こやま なおき)

名古屋市立大学大学院経済学研究科
博士後期課程
統計学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

日本の国際環境協力の実際について調べています。

2. 先生の自己PRをお願いします。

A straight tree on the small mountain.

3. 経済学の面白さは何ですか？

世の中の動き（経済的な側面）の8割ぐらいは、経済学的な考え方で説明が
つきます。だから、おおよその予測は可能です。それでも説明がつかない現
象がちらほら出てくるので、「なんでこーなるの？」と頭をひねるのが経済
学の面白さでしょうか。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

朝は8時ごろにはキャンパスに着いて、夕方はサッカー部で汗を流すか、
SF研究会に顔を出す。週に2回、家庭教師のアルバイトをこなす。土日は
サッカー部の試合。それ以外の時間は講義の予習・復習をしているか、SF
を読んで過ごす。そんな毎日をおくっていました。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

本屋めぐりをしています。

6. おすすめの1冊を教えてください。

山手樹一郎の「吉原御免状」

7. どんな学生を評価しますか？

チャラくない学生

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

「マイペース」で行こう！



杉村 芳美 (すぎむら よしみ)

東京大学大学院経済学研究科
理論経済学専攻博士課程
経済体制 社会経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

経済体制を、社会の中にある経済という視点から研究しています。
なかでも、歴史や文化のなかでの労働・仕事についての意識や制度のあり方
に関心があります。

2. 先生の自己PRをお願いします。

若くはありませんが、気は人一倍若いと思います。学生諸君とわいわいがや
がや話すのが大好きで、ゼミの学習もその延長。**Face to face** のコミュニケ
ーション第一、を実践しています。学生諸君の表情を見てみると、うまくい
っていると自負しています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

経済学の魅力は、社会の仕組みと動きを説明できる視点を与えてくれること
です。もちろん、経済学が全てを説明するわけではありませんが、それでも
一つの体系的な見方をもてることは、有意義なことです。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

やっぱり勉強をしていた方でしょう。といっても、授業の勉強ではなく、好
奇心にまかせていろいろな方面の書物を読みました。なにしろベトナム戦争
や大学紛争で世間が騒がしく、いろいろなことを知りたくてたまりませんで
した。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

家族と出かけることが多いですね。サッカーの試合もたまに見に行きます。大きい声を出して、地元チームを応援しています。

6. おすすめの1冊を教えてください。

新入生に薦めたい本では、斎藤孝『1分で大切なことを伝える技術』（PHP新書）です。考えをまとめ伝える力を身につけよう。あと、斎藤孝さんの本をもう一冊。『子どもに伝えたい<三つの力>』（NHKブックス）です。もちろん、みなさんにも伝えたい力です。

7. どんな学生を評価しますか？

いちばんは、積極的な参加姿勢を見せてくれる学生です。ゼミでも大教室授業でも、反応のよい学生は、他の学生たちにも刺激を与えてくれます。あと、世の中（世界）へ旺盛な知的好奇心をもつ学生。いろいろ知り、みんなと話し合い、自分の考えを掘り下げて行ってほしいですね。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

大学生活は、人生で2度とない貴重な4年間です。自己の成長のために充実した過ごし方をしてください。いろいろな考えに触れ、いろいろな世代と交流をもち、自分の世界を意識して広げ深めてください。本を読み、新聞に目を通し、TVのニュースやドキュメンタリーを見るようにしよう。そして友人たちとの絆を広げる。そこから、自分の将来の道が見えてくるでしょう。



柘植 隆宏 (つげ たかひろ)

神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程
環境経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

環境経済学です。

2. 先生の自己PRをお願いします。

奈良県出身、36歳、既婚です。

現在、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で在外研究を行っています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

単純なロジックにも関わらず、環境問題をはじめとした複雑な現象について、その発生原因を解明したり、有効な対策を考えたりする上でとても役に立つところ です。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

アウトドアサークルの副会長をしていました。

勉強よりもサークル活動に力を入れていました。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

仕事の都合で平日は別々に住んでいる奥さんと一緒に過ごします。

2人で買い物に行ったり、ごはんを作ったりします。

6. おすすめの1冊を教えてください。

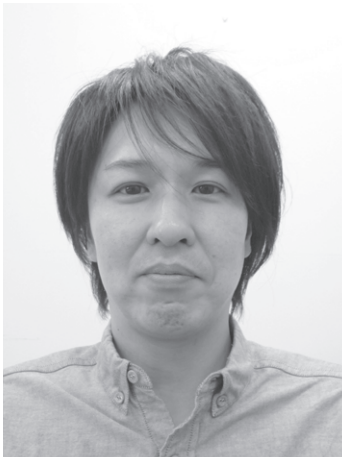
特にないです。気になった本を手当たり次第に読むといいと思います。

7. どんな学生を評価しますか？

社会をよりよくするために、自分も何かしたいと考えている学生が好きです。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

みなさんにお会いできることを楽しみにしています。



寺尾 建 (てらお たける)

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程
理論経済学 マクロ経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

——経済成長と景気循環のメカニズムの解明です。経済成長や景気循環がなぜ起こるのかという問題とそれらを「問題」として成立させる認識論的視座との関係に着目しています（ということ、最近、自覚できました）。

2. 先生の自己PRをお願いします。

——ぼくのことをよく理解してくれている人によれば、「いつも難しい顔をしている」ということなのですが、それは、たんに余裕がないからです。ちなみに、「器用ですね」といわれたことは、これまでに一度もありません。

3. 経済学の面白さは何ですか？

——知的構築物としての経済学の面白みは、“直感に反する正しい結論を導く”というところ、誤解を恐れずにいえば、“人の神経を逆撫でする”というところにあると思います。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

——観察可能であったことでいえば、テレビは一切見ず、情報は新聞から、知識は書籍と人から得ました。ケータイもインターネットもまだ存在していませんでした。そのことで、“検索能力”が鍛えられたと思っています。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

——書店に行き、CD ショップに行き、服屋に行きます。各種のお店の“調査”を行い（月に一度）、映画館に赴き（四半期に一度）、劇場に入り（半期に一度）、外食をして、帰宅した後は、音楽を聴いて、読書をします。

6. おすすめの1冊を教えてください。

——岩間輝生・坂口浩一・佐藤和夫 編『高校生のための現代思想エッセンス ちくま評論選』（筑摩書房，2007年）。ここで取り上げられている問題を自分の問題として捉えることが、大学での課題だと思います。

7. どんな学生を評価しますか？

——「ありがとう」「ごめんなさい」を、きちんと言える人。勇気のいることだと思うので。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

——甲南大学に、ようこそ。この大学には、不思議な力があります。みなさんは、「甲南大学で4年間を過ごすことがなかったならば、絶対にそのようにはならない」というような素晴らしい人物に、必ずなります。



中島 清貴 (なかしま きよたか)

大阪大学経済学研究科後期博士課程
応用計量経済学 金融論

1. 先生の研究テーマは何ですか？

以前は、ゼロ金利下における貨幣の動向や金融政策の効果などに関する研究を中心にやっていました。最近では、金融機関への公的資金注入の影響など金融システムの安定化に関する研究を行っています。

2. 先生の自己PRをお願いします。

学生時代は経済学という学問に拒否反応がありました。ですから、経済学が嫌いな学生さんがどういったところに苦手意識をもっているのか何となくわかります。

3. 経済学の面白さは何ですか？

決まりきった答えが無いことです。自然科学のように美しく体系だった学問である反面、社会に生きる人達の様々な情念を引き受けながら、いろいろな考え方や答えを認めうる『度量の広さ』がこの学問にはあると思います。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

『気の多い』学生でした。友人からは『落ち着きがない』『変わった』奴と見えていたのではないのでしょうか。サークルを辞めたかと思えば、マザーテレサに会いにインドに行ったり、薬害エイズ事件の裁判に関わったり等々、とにかく『気の多い』学生でした。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

今、幼稚園に通っている息子とひたすら遊びます。息子とプールに行ったり、公園に行ったり、野球場に行ったり、散歩をしたりしながら過しています。

6. おすすめの1冊を教えてください。

年齢とともに感銘を受ける本のタイプが変わってきています。最近はミステリーであれ、時代小説であれ、純文学であれ、『父親』（もしくは『夫』）が家族と関わりあいながら物語が進行していく類の本と相性が良いようです。私が大学生のときは、村上春樹と安部公房の本をむさぼり読んでいました。皆さんと相性の良い本（もしくは作家）が見つければ良いですね。

7. どんな学生を評価しますか？

僕は、勉強が出来るか出来ないかで人を評価することはしないです。自分なりに何かを追い求め、ひたむきに生きようとしている人と同じ時間を費やしたいです。そうした人は学生さんであってもとても尊敬します。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

『良い人間』（＝良い大人，良い友人）に出会ってください。そのためには、自分を高めていきたいと思う『向上心』が必要です。あとは、学習や仕事で必要とする時間以外に携帯電話を使用し過ぎたり、パソコンの前に居過ぎたりすると限られた人生の時間を不毛にする可能性がとても高いと思います（もちろん、自戒の念を込めています）。



林 健太 (はやし けんた)

大阪大学大学院国際公共政策研究科
博士後期課程
ネットワーク経済学 電気通信
公共政策

1. 先生の研究テーマは何ですか？

情報通信経済学、平たく言えばインターネット関連産業のあり方や問題点について、大学院時代からずっと研究してきました。

2年前の海外留学を機に、現在は関心分野が観光産業へとシフトしつつあります。今、最も興味があるのは、日本へのカジノ導入の可能性について調査・研究することです。

2. 先生の自己PRをお願いします。

基本的におおらかな性格で、あまり細かいことは気にしません。小学生の頃にアメリカに住んだことがあるため、英語を聞く「耳」は持っていると思います。唯一、今でも続けているヴァイオリンは、2年前の留学の際に現地の人たちと打ち解ける一助となりました。海外（アメリカ）と日本の両方の文化がある程度理解できるのは、自分の強みだと思っています。

3. 経済学の面白さは何ですか？

世の中の出来事を、経済学というツールを用いれば、客観的に見られるようになること。意外かもしれませんが、恋愛や流行などといったことも、経済学で説明できます。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

マンドリン・ギタークラブで指揮者をしながら、友達に会うために大学に通う、そんな一般的な学生でした。2回生の時、ちょうど成人式の直後に阪神・淡路大震災を経験し、大学は1年間休講になり、クラブの演奏会も中止せざるを得なくなったのを何とか自分たちの力で再開させることができたのは、今では良い思い出となっています。また、時代的にインターネットの黎明期でその普及の過程に興味を抱いたのと、震災で奪われた学生生活をもう少し送りたいとの思いから、大学卒業後すぐに就職するのではなく、大学院への進学を決意しました。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

プロサッカーチームのヴィッセル神戸が大好きなので、可能な限り、週末はホームスタジアムに通っています。ただ、最近子供が生まれたため、しばらくはスカパー観戦になりそうです。

6. おすすめの1冊を教えてください。

堤未果 著『ルポ 貧困大国アメリカ』、『同Ⅱ』（岩波新書）。
不景気とはいえ、日本の若者が恵まれていることがよく分かります。

7. どんな学生を評価しますか？

新しいもの好きの人、海外に関心の高い人、卒業後も長くつきあえる人。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

これから4年間を過ごす上でのアドバイスとしては、「卒業するまでに、できるだけ多くの友人・知人を作ること」に尽きると思います。大学時代の友人・恩師は一生の宝物であり、かけがえのない財産となります。学生の間は勿論、社会に出てからも、利害関係無しに相談に乗り、協力してくれるのは、彼（彼女）らに他なりません。一人でアルバイトや資格の勉強に精を出すのも良いとは思いますが、サークル活動やゼミ等を通じて一人でも多くの方と出会い、共に遊び、共に学びながら4年で卒業されることを願っています。



藤本 建夫 (ふじもと たてお)

京都大学大学院経済学研究科博士課程
現代ヨーロッパ経済

1. 先生の研究テーマは何ですか？

ドイツ自由主義の経済
震災と経済復興
平生夙三郎とその時代

2. 先生の自己PRをお願いします。

就職など、自己をPRする場に直面したことがないので、個人的には興味はない。ただし、君たちはこれから様々なシチュエーションで自己PRしなければならなくなるが、表面的なPRではすぐに化けの皮がはがれるので注意が必要。自己PRのまえに自己をしっかり磨くことを忘れないでください。

3. 経済学の面白さは何ですか？

経済学の面白さをゲーム感覚で会得する感性は残念ながら持ち合わせていない。じっくり根気よく経済事象の解を求める癖がつけば、これほど面白く奥の深い学問はない。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

私は岡山大学で大学生活を送ったが、最初の3年間は何の変哲もなく牧歌的そのものの生活（講義に出て、クラブの部室でおしゃべりをし、家庭教師をする）であったが、4年の時大学紛争が発生し、以後大学や社会・政治の何が問題なのかを友人達とよく議論した。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

特別な過ごし方はない。仕事をするか、貸農園に出かけて草取りをし畑を耕すぐらいかな。

6. おすすめの1冊を教えてください。

吉村昭『関東大震災』（文春文庫）

7. どんな学生を評価しますか？

大学4年間はあっという間に過ぎてしまう。1年の時は大学生活に慣れるのに過ぎ、2年では羽を伸ばし、3年の後期以降は就活、と考えると学生時代は本当に短い。この事実をしっかり自覚している学生を評価したい。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

7と同じ意味で、短い大学生活を有意義に過ごしてください。



古川 顕 (ふるかわ あきら)

京都大学大学院経済学研究科博士課程
金融論

1. 先生の研究テーマは何ですか？

金融全般・経済学史

2. 先生の自己PRをお願いします。

温泉研究・離島巡り・俳句・エッセイ執筆・四国遍路など極めて多趣味。

3. 経済学の面白さは何ですか？

内外の経済活動の相互依存関係、因果関係を分析することは大きな魅力。中国の政治・経済の将来を予想することにも非常に興味を持っている。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

俳句会に属し、真面目に勉強し、よくデートした。

5. 休日の過ごし方を教えて下さい。

特に休日を意識せず、勉強していることが多い。よく本を読み、スポーツ・クラブにも通っている。

6. おすすめの1冊を教えてください。

沢木耕太郎『深夜特急』（新潮文庫、ただし全5冊）。

敢えて一冊なら、古川顕『旅の途中で』（ナカニシヤ出版）。

7. どんな学生を評価しますか？

探究心が旺盛で、チャレンジ精神に富んでいる学生。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

「よく学びよく遊べ」



森 剛志（もり たけし）

京都大学大学院経済研究科博士後期課程
所得分配 経済統計学 ミクロ経済学

1. 先生の研究テーマは何ですか？

家計の経済、労働経済、社会保障

2. 先生の自己PRをお願いします。

自分をPRできるような大した人物ではありません。ただ、いまやらなければならないことを積み重ねています。そんな地道なところぐらいです。

3. 経済学の面白さは何ですか？

少し先の時代を、ほぼ正確に予想できること + 現在起こっていることを冷静に判断するツールを与えてくれること。

4. 先生は大学時代、どんな学生でしたか？

私は、学生時代、タイ・マレーシア・シンガポール・インド・ネパール・アメリカなど世界各地を転々と旅行しました。時間とお金があれば旅をしていました。自分探しをしていたのです。

最近は、そんな面白い若者に出会っていません。私の学生時代はそんな友人ばかりでした。

部活やバイトでの友人関係も大切かもしれませんが、でも自分とは何か？を見つめることができるのは、そんなにありません。

5. 休日の過ごし方を教えてください。

家族とゆっくりと。買い物など。

6. おすすめの1冊を教えてください。

森剛志（共著）「日本のお金持ち研究」（日本経済新聞社）

7. どんな学生を評価しますか？

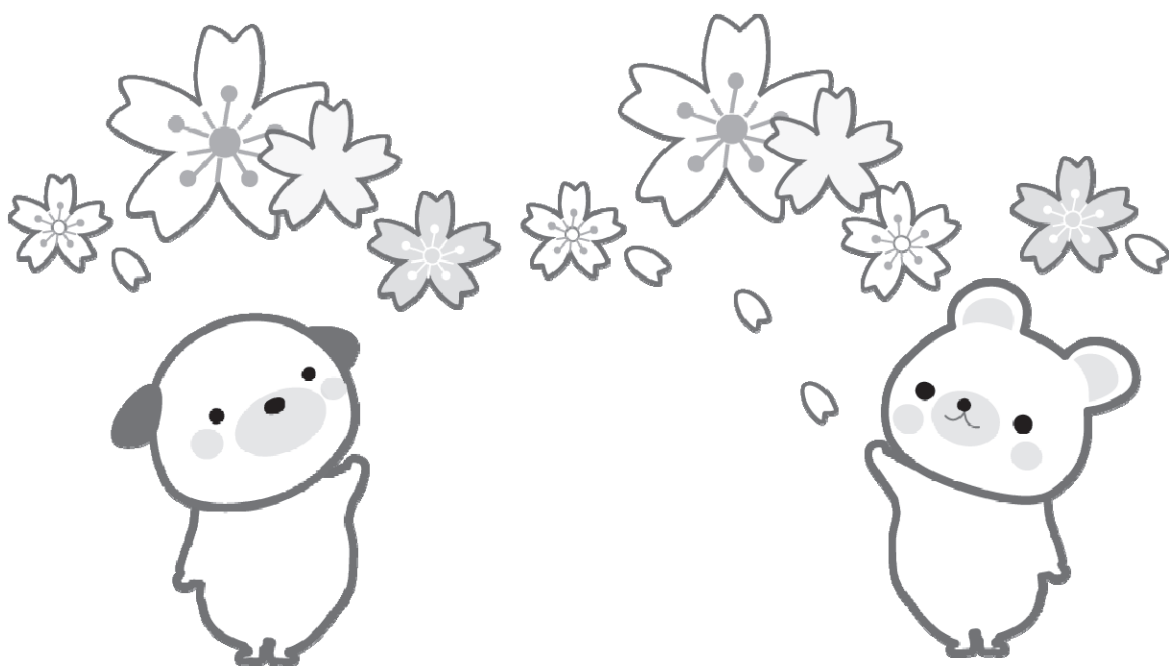
友達としてではなく、「先生と学生という立場」で、大学の先生と話せる学生。

8. 最後に新入生にメッセージを一言お願いします。

人生では、うまくいかないことがあります。どうしようもないほどの屈辱をうけることもあります。でも、いつも心にバランスを。そして少しの勇気と情熱を！

ハングリーであれ！バカであれ！

新入生への メッセージ



私の大切な4年間

2010年度卒業 中島清貴ゼミ所属

蒸原 洋明

私は甲南大学で多くの人に出会い、様々な経験をしました。大学生になるみなさんにも、4年間で多くの人に出会い、様々な経験をして欲しいと思います。

学生の間は社会人になる前の貴重な時間です。しかも、比較的自由に使えるはずです。部活・サークル、旅行やアルバイトなど、学生の間にはできないことがたくさんあります。特に、夏・春の長期休暇には、体を動かすようなことに挑戦してほしいと思います。多くの人がいうことではありますが、社会人になると本当に時間が貴重なものになります。私の場合、土日祝日は必ず休日になる仕事ではありますが、正直なところ平日の疲れをとるだけで精一杯。時間は有限です。もっと学生の間楽しんでおけば良かったと後悔しています。

学生のときの時間の使い方に後悔をしている一方で、得たものもたくさんあります。その一つが、「出会い」です。まず、先生との出会いでした。講義やゼミに関することはもちろん、就職活動について相談していただいたこともありました。そして、友人との出会い。講義やゼミでは机を並べ、テスト前にはノートを見せ合いながら学ぶこともありました。さらに、先輩・後輩との出会い。経済学会の学生評議員（この説明については他のページで詳しく説明しているはずなので割愛します）として、多くの先輩・後輩と出会いました。先輩にはどのような活動があり、具体的にどのような仕事をしなければならないか、事細かに教えていただきました。後輩には難題をお願いすることもありました。必ずやり遂げてくれました。感謝しています。

素晴らしい人々とお会いすることができたからこそ、社会人としての「今」があるのだと思っています。みなさんもこの大学4年間で社会人への準備期間として、いろんなことに挑戦してください。そして、少しでも多くの人と出会い、その人たちの考え・意見に耳を傾けてください。そうすれば就職活動も上手くいくかもしれませんよ。えっ、信じられないって？これは私の考えです。さあ、いろんな人の意見に耳を傾けてみましょう。

「甲南大学で経済学に出会う」

2011 年度卒業 柘植ゼミ所属 宮本舞

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。経済学部を目指して見事入学を果たした人、また経済学がどのようなものか分からずに入学してきた人、どんな人にとってもこれから始まる4年間はとても貴重なものになることでしょう。

私は入学当初、経済学がどのようなものか全く知らない新入生でした。そんな私が経済学に出会うことが出来たのは甲南大学のおかげです。どの先生が言われていたかは忘れてしまいましたが、「経済学を学べば身の回りの様々なことが分かる」その言葉が経済学初心者の私には印象的でした。

用語が難しい、計算が出てくる、テストが・・・、単位が・・・、とこれから経済学に悩まされることもあるかもしれません。しかし、初めから経済学を“難しいもの”と決めつけてしまうのではなく、甲南大学経済学部に入學し、このキャンパスで経済学を学ぶチャンスを得た新入生の皆さんには経済学と少しでいいので向き合ってもらいたいと思います。

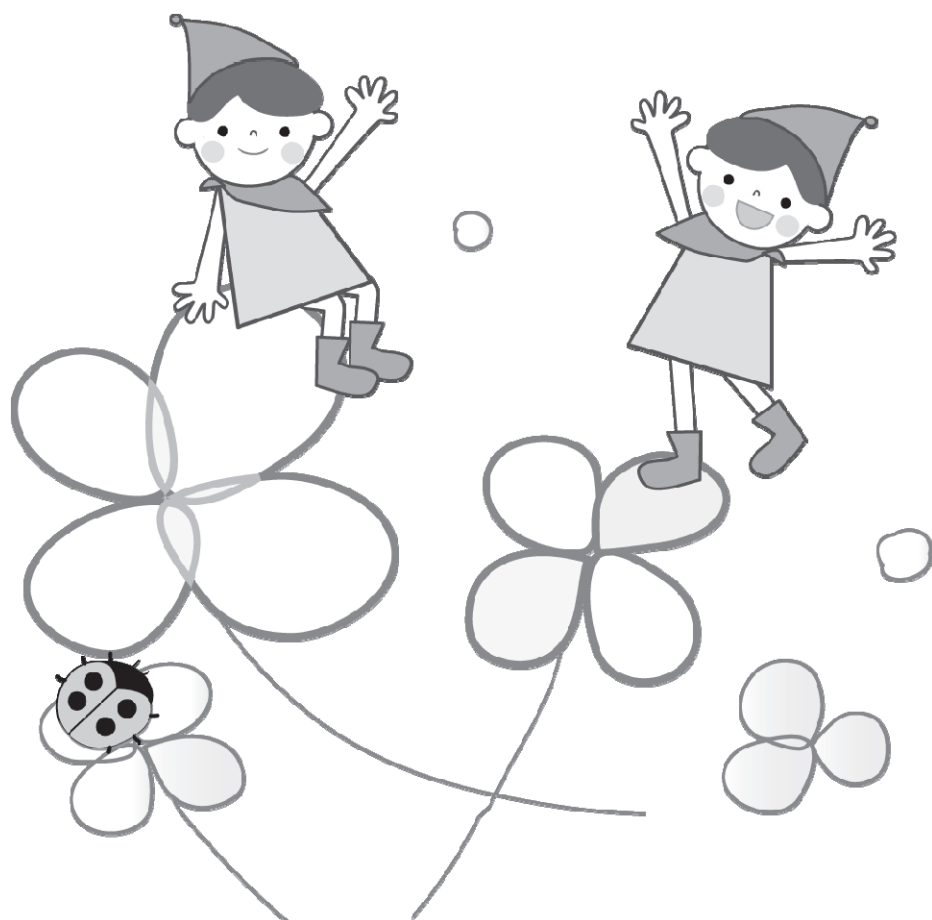
皆さんはこれから自分自身で様々な授業の中から自分で授業を選択することができます。ですので“誰かにやらされている”ではなく、皆様が積極的に経済学に向き合ってみてください。

私事ですが、私は甲南大学で経済学に出会い、卒業後春から大学院に進学します。そして引き続き経済学を学び、研究を行う予定です。甲南大学入学当初には考えられなかった進路に自分自身驚いています。これも甲南大学のキャンパスや先生方、教職員の皆様、一緒に勉強をしたゼミのみんなや友人、そして誰よりお世話になった柘植先生に出会えたおかげだと思っています。

これから始まる大学生活には沢山の楽しいことが待っていることでしょう。沢山の友達も出来るでしょう、かけがえのない思い出も出来る事だと思います。そして新入生の皆様が社会に出る前の貴重な時間に、“自分は経済学を学んだぞ！”と心から思えることを私は願っています。

4年間を最大限楽しんでください。

新入生の みなさんへ！





甲南大学経済学会について

経済学会とは？

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。甲南大学経済学部
に入学した皆さんは、同時に「甲南大学経済学会」の会員となりました。**甲南大学経済学会とは専任教員・経済学部学生（EBA 総合コース除く）・大学院学生**で構成されています。経済学会は、経済学部教員・学生と相互にコミュニケーションをとりながら、皆さんがより良い大学生活を送れるように日々活動しています。

新入生の皆さん、ぜひ大いに活用して下さい。

学生評議員・学生スタッフ

それぞれ役職を決めた、学生評議員と学生スタッフが共同で活動しています。先輩・後輩同士でも気軽に会話ができる、とても和やかな雰囲気です。

定期的に評議員会を開きます。この場では教員評議員・学生評議員が企画内容等について意見を交換します。

主な活動内容

・総会

毎年5月下旬に開かれます。今年度の活動方針・予算・評議員を決めるための大切な会です。みなさんの意見を聞くことが目的の1つであるので、「経済学会 会員」は原則出席となっています。

・講演会

前年度は「まいど1号」という人工衛星の打ち上げで話題になった、青木豊彦さんにお越しいただきました。講演会で、これからの学生生活に生かすことが出来る知識や考え方を吸収しました。

・ゼミ紹介（2回生以上対象）

後期から始まるゼミⅠを選択する際の参考になります。参加できなかった人は、コモンルームでビデオを見ることができます。

・社会見学

工場・会社に見学へ行きます。現場に足を運ぶからこそ学べるものがたくさんあります。前年度は「灘菊酒造」と「大阪ガス」と「姫路製造所 姫路ガスエネルギー館」へ行きました。経済学部生であれば誰でも参加できます。

・経済学部インナーゼミナール大会

ゼミでの研究成果を発表する大会です。甲南大学経済学会で企画・運営する甲南大学経済学会の最大の行事です。

発表は誰でも見ることができます。2回生から本格化する『ゼミ』を知るためにもぜひ参考にして下さい。

経済学会に興味がある、もっと詳しいことが知りたい!!という方は

まずはコモンルームへ!!

5号館5F(5505)へ来てみて下さい。経済学部生専用のポット・電子レンジ・パソコンがあります。

4月は新入生を対象にお菓子の配布を行っています。また時間割作成のサポートやそれに関する質問にもお答えします。コモンルームに在室している評議員・スタッフに気軽に声をかけて下さい。また、HPもご覧下さい。

<http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/gakKai/>

開室中は常時ドアを開けています。とてもオープンな雰囲気ですので、ぜひ一度経済コモンルームへ!!

経済学会評議員募集!!

経済学会では一回生の新しい評議員を募集しています。

ここでは経済学会会員がよりよい大学生活を過ごすことができるように、会員代表としてさまざまなサポートを行っています。また、数々の行事を開催しています。

評議員に興味がある方、大学に入って何か挑戦してみたい方、何かを企画、運営することが好きな方はぜひ一度気軽に見学にいらしてください。

興味のある方は一度5号館5階にある
経済コモンルームに!

甲 南 大 学 経 済 学 会 会 則

昭和 35 年 2 月 24 日 制定承認
昭和 41 年 12 月 14 日 改正承認
昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会改正承認
昭和 49 年 5 月 16 日 経済学会総会改正承認
昭和 52 年 5 月 18 日 経済学会総会改正承認
昭和 58 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認
平成 2 年 5 月 30 日 経済学会総会改正承認
平成 3 年 5 月 29 日 経済学会総会改正承認
平成 4 年 5 月 27 日 経済学会総会改正承認
平成 6 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認
平成 8 年 5 月 29 日 経済学会総会改正承認
平成 9 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 13 年 5 月 30 日 経済学会総会改正承認
平成 15 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 16 年 5 月 26 日 経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日 経済学会総会改正承認

第 1 条 本会は、甲南大学経済学会と称し、事務所を甲南大学経済学部内におく。

第 2 条 本会は、全員加盟を原則とする。甲南大学経済学部の専任教員・学生（EBA 総合コースの学生を除く）・大学院学生・卒業生のうち入会を希望する者、その他本会評議員会において入会を認めた者をもって組織する。会費については以下のとおり。なお、納入した会費は、理由のいかんを問わず返還しない。ただし、学生会員として会費を納めた者で入学を辞退した者についてはこの限りではない。

教 員	年 会 費	5,000 円
学 部 学 生	会 費（在学期間）	20,000 円
大学院学生	会 費（在学期間）	10,000 円

又、卒業生会員の権利および義務については、別に細則を定めるものとする。

第 3 条 本会は、経済学の研究ならびに普及をもって目的とする。

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会
2. 学術講演会
3. 甲南経済学論集および経済学学生論集の発行
4. 学会新聞の発行
5. 研究・教育資料の収集・管理
6. インナーゼミナール大会の開催
7. 専任教員研究書刊行助成
8. その他本会の目的を達成するために必要と認める事項

第 5 条 本会の最高議決機関として総会を置く。本会の予算と決算は総会の承認を得なければならない。総会規程は別に定める。

第6条 総会は、本会の事業を運営するために評議員を選出する。評議員会は、経済学部長を含む専任教員8名、学生8名以上20名以下により構成され、任期は1年とする。評議員会規程は別に定める。

第7条 評議員長は経済学部長が兼任する。評議員長は本会を代表し、総会および評議員会を招集する。

第8条 評議員会は互選により次の役員を選出する。

1. 総務委員（教員1名学生1名ないし2名）は、評議員間の連絡・調整にあたり、評議員会の事務を統括するとともに、本会の事業の記録を作成する。
2. 会計委員（教員1名学生1名ないし2名）は、本会の事業経費を管理する。
3. 管財委員（教員1名学生2名ないし3名）は、研究・教育資料の収集を行う。
4. 編集委員（教員2名学生2名以上）は、甲南経済学論集、経済学学生論集、学会新聞等の定期刊行物の編集・発行にあたる。
5. 企画委員（教員2名学生2名以上）は、研究会、学術講演会、インナーゼミナール大会、その他本会の目的を達成するための事業を企画する。

なお、評議員会は必要に応じて会員の中から本会の活動に協力する実行委員を委嘱することができる。

第9条 評議員会は、本会の事業活動を円滑に行うための諮問・連絡機関としてゼミ委員会を招集することができる。

第10条 本会の事業とそれにとまなう予算の執行を厳正・公平たらしめるべく、教員1名学生1名の監査委員を置く。監査委員は総会において選出され、任期は1年とする。

第11条 本会の経費は、会費・事業収入・寄付金および甲南大学からの助成金をもってこれにあてる。

第12条 本会則は、総会規程第6条に基づいて改正することができる。

総 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会制定承認
平成 6 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 総会は、経済学会会員全員によって構成され、その決議はすべてに優先する。
- 第 2 条 原則として毎年 5 月に定期総会がもたれなければならない。
- 第 3 条 評議員長は、次の場合 2 週間以内に臨時総会を招集しなければならない。
1. 評議員会が必要と認めたとき
 2. 経済学部教員 2/3 以上の要求があったとき
 3. 学生会員 50 名以上の要求があったとき
 4. 卒業生会員 50 名以上の要求があったとき
- 第 4 条 総会は、卒業生会員を除く全会員の 1/5 以上の出席により成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。
- 第 5 条 総会の決議は、出席会員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。
- 第 6 条 経済学会会則の改正は、出席会員の 2/3 以上の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

評 議 員 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会制定承認
昭和 52 年 5 月 18 日 経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日 経済学会総会改正承認
平成 22 年 5 月 19 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 評議員会は、経済学会会則に定められた事業の運営を行い、その事業を達成させるために評議員は評議員会に出席するよう努めなければならない。
- 第 2 条 評議員会は、次の事項について総会の承認を得なければならない。
1. 予算および決算
 2. 活動報告
 3. その他評議員会が必要と認めた事項

第3条 評議員長は、原則として毎月1回定期評議員会を招集しなければならない。

第4条 評議員長は、次の場合10日以内に臨時評議員会を招集しなければならない。

1. 評議員長が必要と認めたとき
2. 評議員3名以上が必要と認めたとき
3. 学生会員30名以上の要求があったとき
4. 卒業生会員30名以上の要求があったとき

第5条 評議員会は評議員の過半数をもって成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。

第6条 評議員の決議は、出席評議員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

卒 業 生 会 員 細 則

〔昭和52年5月18日 経済学会総会制定承認
平成20年5月28日 経済学会総会改正承認〕

第1条 甲南大学経済学部卒業生のうち、経済学会への入会を希望する者（以下「卒業生会員」とよぶ）は、氏名、卒業年度、現住所を経済学会評議員会に登録し、「卒業生会員証」の交付を受けるものとする。登録は卒業2ヵ月前からできるものとする。

第2条 経済学会への入会を引き続き希望する者は、毎年1月から3月末までの間に、登録の更新を行わなければならない。なお、卒業生会員は、現住所の変更をすみやかに評議員会に届け出なければならない。

第3条 卒業生会員は、登録またはその更新の際、会費年4,000円を納入しなければならない。ただし、2カ年以上の登録と会費納入を一括して行うことはできる。入会金納入の義務はない。

第4条 卒業生会員は、経済学会すべての事業に参加し、そのサービスを受けることができる。ただし、卒業生会員は、評議員に就任することはできず、また「総会規程」第4条にもとづいて総会での投票権をもたない。

第5条 本細則は、総会の決議によって改正することができる。